



令和7年度 大阪府・大阪市

おおさか環境に やさしい建築表彰作品集



Osaka Environmentally Friendly Architecture Award

主 催 大阪府・大阪市

協力：(公社)大阪府建築士会、(公財)大阪府都市整備推進センター、
(一財)大阪建築防災センター、(一社)大阪府建築士事務所協会、
(一財)日本建築センター、(一財)日本建築総合試験所、
(一社)不動産協会関西支部、(一社)近畿建築確認検査協会

はじめに

大阪府と大阪市は、気候変動を緩和し快適で住み良いまちをつくるため、建築物のエネルギー消費性能の向上等に関する法律や、府市それぞれの条例に基づく建築物の環境配慮制度により、建築物の省エネや省CO₂等に取り組んでいます。

建築物の環境配慮制度とは、温暖化やヒートアイランド現象の一要因ともなっている建築物に着目し、一定規模以上の建築物の新築・増改築等を行う建築主に対して、省エネルギーをはじめとする総合的な環境配慮レベルの評価とその届出を義務付け、環境にやさしい建築物の普及促進を図ろうとするものです。

普及促進の取組として、大阪府の「大阪サステナブル建築賞（大阪建築環境配慮賞）」と、大阪市の「CASBEE大阪OF THE YEAR」を統一した「おおさか環境にやさしい建築賞」により、特に環境配慮に優れた建築物の建築主及び設計者を表彰しています。このことにより、建築主等の環境に対する自主的な取組を促進し、良好な都市環境の確保と、環境にやさしい建築・まちづくりに対する意識の高揚を図っています。

この作品集は、表紙に記載の団体のご協力を得て発行していますが、一般の方、特に建築や設備関係を学ぶ学生の方などに先進的な環境配慮の取組みを広く知ってもらい、将来に役立てていただくとともに、本パンフレットを通じて建築環境への理解がより深まっていくことを期待しております。

審査・選考

表彰建築物は、大阪府気候変動対策の推進に関する条例または大阪市建築物の環境配慮に関する条例に基づき届け出された建築物で、令和6年度の間に工事完了し、かつ、CASBEE評価がSあるいはAであるもののうちから、「大阪府建築物環境配慮制度に関する検討会」、「大阪市建築物環境配慮推進委員会」にて選考されました。

委員名簿

令和7年度大阪府建築物環境配慮制度に関する検討会委員名簿（50音順）

岸本 嘉彦	大阪公立大学大学院工学研究科 准教授
○鍋島美奈子	大阪公立大学大学院工学研究科 教授(座長)
松原 茂樹	大阪大学大学院工学研究科 准教授

令和7年度大阪市建築物環境配慮推進委員会委員名簿（50音順）

荒木 修	関西大学法学部 教授
岸本 嘉彦	大阪公立大学大学院工学研究科 准教授
○鍋島美奈子	大阪公立大学大学院工学研究科 教授(委員長)
橋寺 知子	関西大学環境都市工学部建築学科 准教授
松原 茂樹	大阪大学大学院工学研究科 准教授

令和7年度おおさか環境にやさしい建築賞 審査講評

【総 評】

「おおさか環境にやさしい建築賞」は、大阪府気候変動対策の推進に関する条例ならびに大阪市建築物の環境配慮に関する条例に基づき届け出された建築物のうち、環境配慮を目的とした建築計画における独創性・先進性、調和性・統合性、取組姿勢・効果について審査され、各賞に相応しい建築物が選出される。CASBEE評価におけるBEE値、府市の重点評価項目、および審査委員による評価の各得点の合計得点に基づき評価をおこない、総合的に判断し、最終的な受賞対象建築物が選出される。平成27年度より大阪府の「大阪サステナブル建築賞」と、大阪市の「CASBEE大阪OF THE YEAR」を統一し、名称変更された「おおさか環境にやさしい建築賞」は、令和4年度以降、大阪府市ともに毎年度10件以上の審査が続いており、本賞の認知度も向上していることがうかがえる。

令和7年度は大阪府、大阪市ともに12件ずつの審査対象物件があり、いずれもレベルの高い物件であった。今年度は、大阪府内（大阪市を除く）の物件から大阪府知事賞1件、住宅部門賞1件、事務所部門賞1件、商業施設その他部門賞3件が選出され、大阪市内の物件から大阪市長賞1件、住宅部門賞1件、事務所部門賞1件、商業施設その他部門賞2件が選出された。今年度の傾向として、予算規模の大きい開発物件では、独創性・新規性に富んだ環境配慮技術の導入がみられ、高い評価を得た。一方で、環境配慮技術のレベルは全体に向上し、外皮性能や設備的な新規性を打ち出すことは容易ではないが、基本に忠実に冷暖房負荷削減の工夫を重ねた物件も高評価を得て選出された。

最後に、本賞を受賞された物件の建築主や設計段階で熟慮を重ねた技術者の方々に敬意を表すとともに、これらの物件が今後の模範となり、環境にやさしい建築物のさらなる普及に貢献することを期待し、総評の結びとする。

【大阪府知事賞】

大阪府

パナソニック ホールディングス（株）技術部門西門真新棟（門真市）

地上8階建ての事務所建築物は、『この先100年、ずっと最先端』なラボ』というコンセプトで、広大な敷地の南東部分に建設された。敷地の東隣は中低層の住宅地域に面しているため、東西面の開口部はスリット状に縦長に配置されており、隣地への視線の配慮や熱負荷軽減の工夫がみられる。南北面は対照的に日射遮蔽機能があるバルコニーで水平ラインを強調した機能的なデザインとなっている。また、室内外の様々なセンサーで気象条件や明るさ、CO₂濃度などをモニタリングし、建築主が持つ最先端の制御技術を導入することにより、知的生産性を高め、かつ省エネルギーな室内空間が実現されている。将来的な実験室等の需要に応じてレイアウト変更が可能なグリッド天井が採用されており、建築物の長寿命化が意識されている。

以上のように、環境配慮機能と建築機能が高度に調和・融合されており、大阪府知事賞に相応しい建築物である。

【住宅部門賞】

ジオ島本 1工区（三島郡島本町）

JR島本駅前の土地区画整理事業が行われた一区画に立地する。住宅内の断熱性を高め、エネルギー削減に努め、「低炭素住宅」の認定を取得している点に加え、豊かな自然環境を生かしたランドスケープとコミュニティを生み出す多彩な共用部が実現できている点を評価する。

特に自然環境を活かした点では、区画整理事業前の生物環境の保全に配慮している点、住民以外にも開いた庭や広場、子育て関連施設を提供し、新しいコミュニティを創り出そうとしている点が優れている。

【事務所部門賞】

グローバルエンジニアリングセンター（堺市）

海岸近傍の建物においては、平時の快適性を確保しつつ、津波等の有事に対する機能性の維持について特に配慮する必要がある。

本表彰物件は、西面に設備コアを集約することで三面採光、バランスのとれた構造計画を同時に達成しており、外観、計画共にシンプルでありながら沿岸建築物の課題を見事に解き、本質的な価値を重視した計画が実施されている。低イニシャルコストでも適切な環境配慮が可能であることを示しており、今後の環境にやさしい建築の見本となるものといえる。

【商業施設 その他部門賞】 (50音順)

ALFALINK 茨木1 (茨木市)

近年、インターネットショッピングなどの普及により、大型物流拠点の必要性が高まっている。大型物流拠点は地域にとって異質な存在となりやすいが、本表彰物件は近隣住民が利用できる施設と緑化空間をエントランス付近に創出し、近隣との調和性を生み出すことに成功している。

さらに大型倉庫の特性を検討し、Passive手法を積極的に選択しており、人間が滞在する空間が限定的となる大型物流拠点においても環境にやさしい配慮が十分に可能であることを示した好例といえる。

大阪大学・日本財団感染症センター (吹田市)

大学キャンパス内に新設された研究施設であり、「宇宙船地球号」をイメージした特徴的な楕円形の形状である。災害時などにも研究活動を途絶えさせないよう免震構造を採用し、設備インフラのスペースとして外周にリング状にバルコニーが設置されている。また、日射遮蔽機能を期待したアルミルーバーにより特徴的な外観を形成している。

様々な省エネ技術を導入した結果、BEI値0.45でZEB Ready認証を取得した点が評価できる。

阪南大学 新4号館 (松原市)

建て替えられた新教室棟は、エレベーターや階段、コモンスペースを配した中央部の南北に教室を並べ、またキャンパスの中庭に面して段状のテラスを設けた構成である。コストをかけずに環境配慮の工夫を積み重ね、学生にとって快適な空間と多彩な居場所が実現できている点を評価する。

特に中央部の環境配慮が優れており、5層吹き抜けを活かした重力換気とハイサイドライトからの自然光を取り入れている点、また教室内の空気を中央部へ供給し、中央部の空調を抑えて省エネを実現している点が優れている。

【大 阪 市 長 賞】

大阪市

グラングリーン大阪 北館・南館・VS. (大阪市北区)

梅田貨物駅跡地に建築されたオフィス・商業施設・ホテルなどからなる大規模複合施設であり、敷地内で排出された生ごみの有機物から発生させたメタンガスにより電気と熱（温水）を生み出すバイオガス発電設備や、建物の熱源から発生する温排熱と冷排熱を地下水に蓄え再利用する大規模帯水層蓄熱システムの採用など、大規模プロジェクトならではのスケールメリットを活かした先進的な取り組みが展開されている。

点在する屋上デッキには重層的に緑を配置するとともに、建物内部からの眺望を損ねないよう、樹葉が成長していく縦方向のワイヤーの横間隔を確保した壁面緑化を行うなど、中央に配置されているうめきた公園の緑と一体的に計画されている。

様々な環境配慮技術を積極的に導入するとともに、大阪の都心部において、シンボルになりうる緑豊かな空間を創出しており、大阪市長賞に相応しいと評価できる。

【住 宅 部 門 賞】

グランドメゾン北堀江レジデンス (大阪市西区)

白を基調としたファサードは、高層建築物が林立する地域において明るい印象を与え、周辺の街並みに調和するとともに、自然石の石積みで囲まれた植樹帯は、小規模ながらも都心の街並みに潤いと彩りをもたらしている。

また、高性能真空ペアガラスや高効率設備を採用し、ZEH-M Orientedを達成するなど、省エネルギー性能の高い住宅となっている。加えて、全戸に家庭用燃料電池を設置しており、非常時における居住生活継続性にも貢献している。

これらの取り組みは、他の建築主に対して省エネルギー化の好事例となり、住宅部門賞に相応しいと評価できる。

【事務所部門賞】

イノゲート大阪（大阪市北区）

JR大阪駅を中心とした駅ビル群の一角をなす施設として、災害時における帰宅困難者の受け入れが可能となるよう、2階通路での滞留スペースの確保や6階オフィスロビーを耐震天井としている。また、使用した水を自動でろ過・循環する手洗い器の設置や、2種類の燃料を使い分けられるデュアルフューエル式非常用発電機の採用などにより、防災性の高い事業継続性能を確保し、周辺の駅エリア施設との防災連携機能を備えている。

日射を抑制するために北面に設けられたルーバーは、隣接するグラングリーン大阪の眺望を損なうことなく機能し、また、南面の二重層のガラスファサードは、室内への熱負荷を低減するとともに、鉄道の騒音低減にも貢献している。

これらの取り組みは、駅周辺における建築計画の規範となりうるもので、事務所部門賞に相応しいと評価できる。

【商業施設
その他部門賞】
(50音順)

大阪公立大学 森之宮キャンパス（大阪市城東区）

大阪城公園の近隣に立地し、大阪城への眺望を確保しつつ日射を効果的に抑制できるよう、西面に前後二列で角度を変えたルーバーが配置されており、環境配慮を外観デザインの一部としても活用する工夫がなされている。

また、隣接する中浜下水処理場から供給される高度処理された下水処理水は年間を通じて外気温に左右されにくく、安定した水温を維持しているため、建物の空調熱源や雑用水の水源として有効に活用されており、CO₂排出量の削減やヒートアイランドの抑制にも寄与するであろう。

さらに、アリーナでは床放射熱暖房を採用するなど、建築主による環境配慮の積極的な取り組みが見られ、商業施設その他部門賞に相応しい。

パティーナ大阪（大阪市中央区）

大阪城を一望できる敷地特性を活かすため、客室の窓にLow-E複層ガラスを採用し、環境性能を高めるとともに眺望にも配慮した工夫が見られ、ZEB Oriented認証を取得している。低層部のテラス上部には植樹を施し、大阪城から続く緑地と一体となる景観を形成している。

さらに、大阪城で用いられている花崗岩や銅など、調和のとれた自然素材の採用や、古材や廃材をアップサイクルして制作されたテーブルやアートワークの導入など、利用者に環境配慮が感じられるようにした建築主の高い環境配慮意識は、他の建築主の規範となるものであり、商業施設その他部門賞に相応しいと評価できる。

パナソニック ホールディングス (株) 技術部門西門真新棟

「この先100年、ずっと最先端」なラボ

建築物概要

- 所在地：門真市大字門真
- 建築主：パナソニック ホールディングス株式会社
- 設計者：株式会社竹中工務店
大阪一級建築士事務所
- 用途：事務所
- 敷地面積：7,670㎡(仮想敷地設定)
- 建築面積：6,047㎡
- 延べ面積：42,094㎡
- 構造：鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
- 階数：地上8階
- CASBEE評価：Sランク/BEE値3.1
- 重点評価：CO₂削減4.3/みどり・ヒートアイランド対策3.5/
建物の断熱性能5.0/エネルギー削減5.0/
自然エネルギー直接利用4.0



太陽の角度・高さを考慮し、南北面は水平方向、東西面は垂直方向のボリュームとし、日射制御と視界の確保を両立



南北面：水平バルコニーによる庇効果とウェルネスの両立 東西面：開口部を縦長に絞り、角度と高度の低い日射を抑制

【立地、周辺環境】

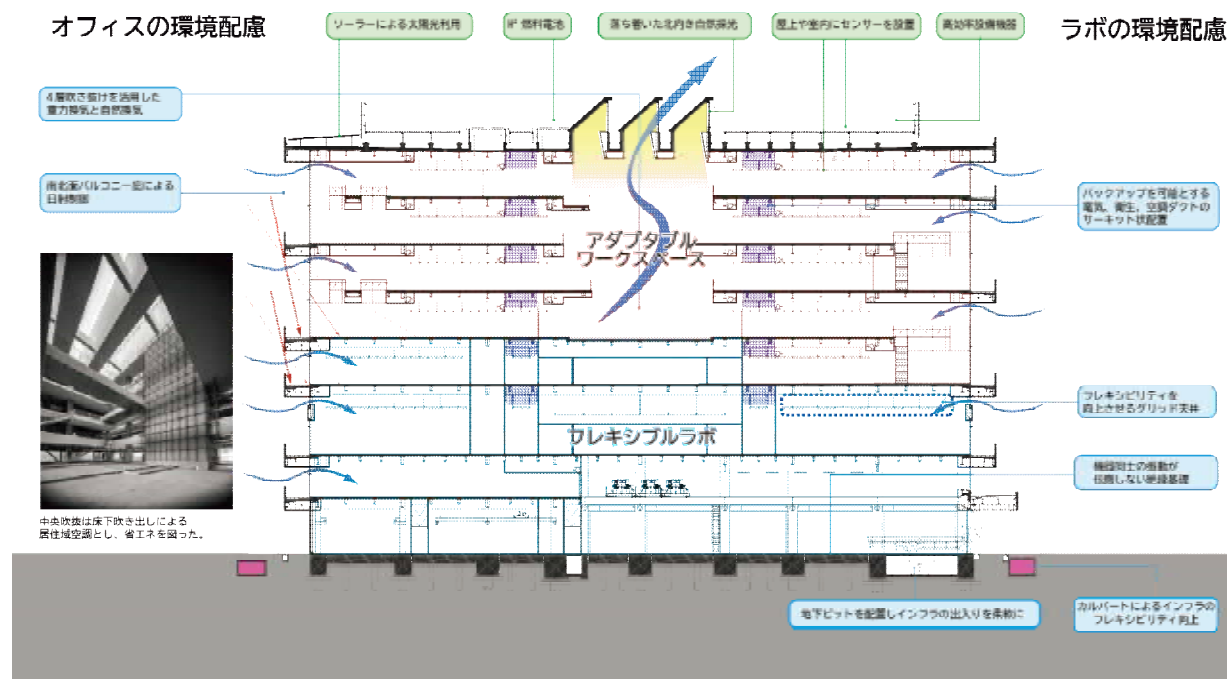
計画地は京阪本線西三荘駅の正面、約50万㎡の広大なパナソニック西門真地区の起点となる場所である。周辺は中層以下の建築が多く、四方から光・風・熱を得られる。南北の同社施設群との景観的調和、東西の周辺住宅地への生活環境配慮を図りながら、環境と呼応する計画とした。

【総合的なコンセプト】

「この先100年、ずっと最先端」なラボ

パナソニックのモノづくりの総本山である。これから100年先の将来を見据え、常に最先端として変化し続けることを目指し、様々な環境配慮技術を導入した。平面計画では東西ツインコア、基幹設備のサーキット配置、鋼製グリッド天井といった設備の統合により「どこでもラボ」を実現した。外装はPCa版でメンテナンスし、南北庇+東西スリット窓によって熱負荷低減を図った。室内の様々なセンサーで環境をリアルタイムで計測し、建築自体を連動可動させる「レスポンスフルファサード」や「アダプティブ室内環境制御」を開発した。太陽光から水素へエネルギー媒体の変換も行う資源循環にもチャレンジし、建築主の技術を最大限活かすライブオフィスとしての役割を果たす。ここで展開されていく活動や創造によって建築に生命が吹き込まれていく、生きたラボを目指した。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

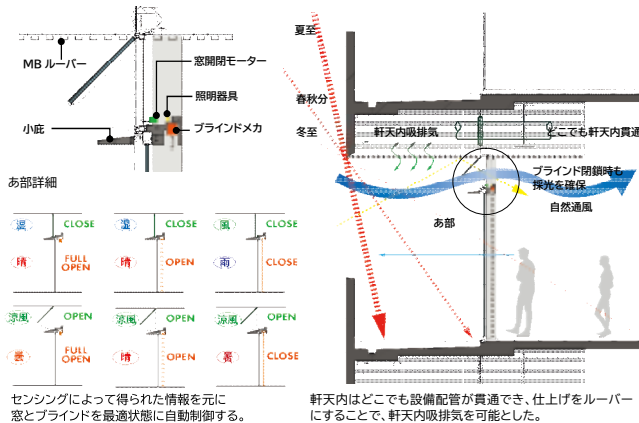
■環境に呼応する内外の制御技術

室内外に設置した様々なセンサーにより環境をリアルタイム測定し、最適なソリューションを統合制御して建築と設備に連動。快適な空間提供と省エネの両立を実現。



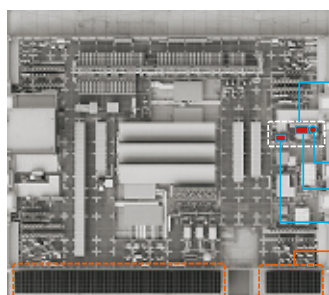
■レスポンスファサード

天候、風向・風速、内外の気温・湿度、照度、CO2などをセンシングし、バルコニー上部突き出し窓の自動開閉や、ブラインド自動昇降・羽角度（ピッチ）の自動変更を行う。環境計測に応じて自ら反応し（考え）、動くファサードとした。



奥行のある方が縦ルーバーとして働き、欄間窓が開閉。天井ルーバーが風景や照明を柔らかく反射する。

■最先端の水素利用システム(水素+太陽光発電)



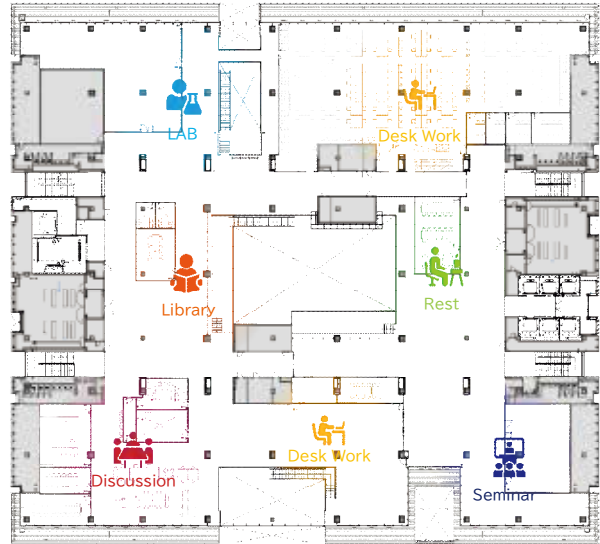
屋上平面

純水素型燃料電池を実装。太陽光パネルで発電したCO₂フリーの自然エネルギーを活用し、グリーン水素を生成し、純水素燃料電池にて高効率な発電を可能としている。自家消費システムだけではなく、太陽光・蓄電池・燃料電池の一斉発電によるピークシフトや、非常時に太陽光と燃料電池による発電稼働時間の延長も可能にしている。



■アダプティブ室内環境制御

センサーによる照明・空調・気流などの制御と、利用者位置情報（混雑度）のマップ上での可視化によって、一体的な空間でありながら多様な居場所を選択的に利用できる場を創出し、省エネと知的生産性の両立を実現。

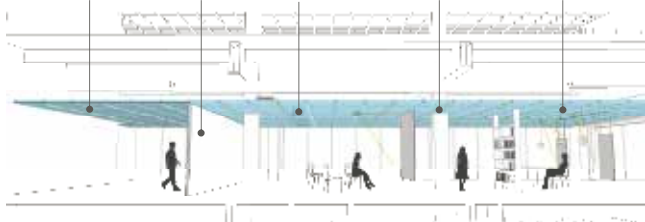


平面図

■どこでもラボシステム

平面上のどこにでも実験室を構築可能とする画期的なレイアウト変更システム。剛強な鋼材で構成された900mmピッチのグリッド天井に間仕切り実験設備を固定。改修時のグリッド天井上部の建築設備の大きがかなり変更を不要とする。

01 天井仕上がり自由 02 間仕切り設置が自由 03 照明設置が自由 04 造作固定が自由 05 新商品テストが自由



照明などが自由に設置できるグリッド天井

グリッド天井に間仕切りや建具を固定している

ジオ島本 1工区

未来に繋がる温かなコミュニティを育む、環境配慮マンション

建築物概要

- 所在地：三島郡島本町桜井2丁目
- 建築主：阪急阪神不動産株式会社
- 設計者：株式会社フジター級建築士事務所
- 用途：共同住宅

- 敷地面積：8,947㎡
- 建築面積：2,644㎡
- 延べ面積：18,500㎡
- 構造：鉄筋コンクリート造
- 階数：地上15階
- CASBEE評価：Aランク/BEE値1.6
- 重点評価：CO₂削減3.8/みどり・ヒートアイランド対策3.5/建物の断熱性能4.0/エネルギー削減5.0/自然エネルギー直接利用3.0



【立地、周辺環境】

本事業地は、背後に丹波山系の山並みが広がり、南・東に淀川水系の河川を望む島本町(水無瀬エリア)に位置する。当該エリアは、緑豊かで水資源も豊富な地域で、本件はJR島本駅前で土地区画整理事業が行われた一区画に立地する。豊かな自然を継承・発展させ、郊外型の立地特性を活かした環境と景観を創出する宅地開発のモデルとして取り組んでいる。島本町は大阪市と京都市のほぼ中央で大都市圏から適度な距離に位置し、交通の利便性が高く、自然環境との調和の中で良好な居住環境が実現できる場所として認知されている。

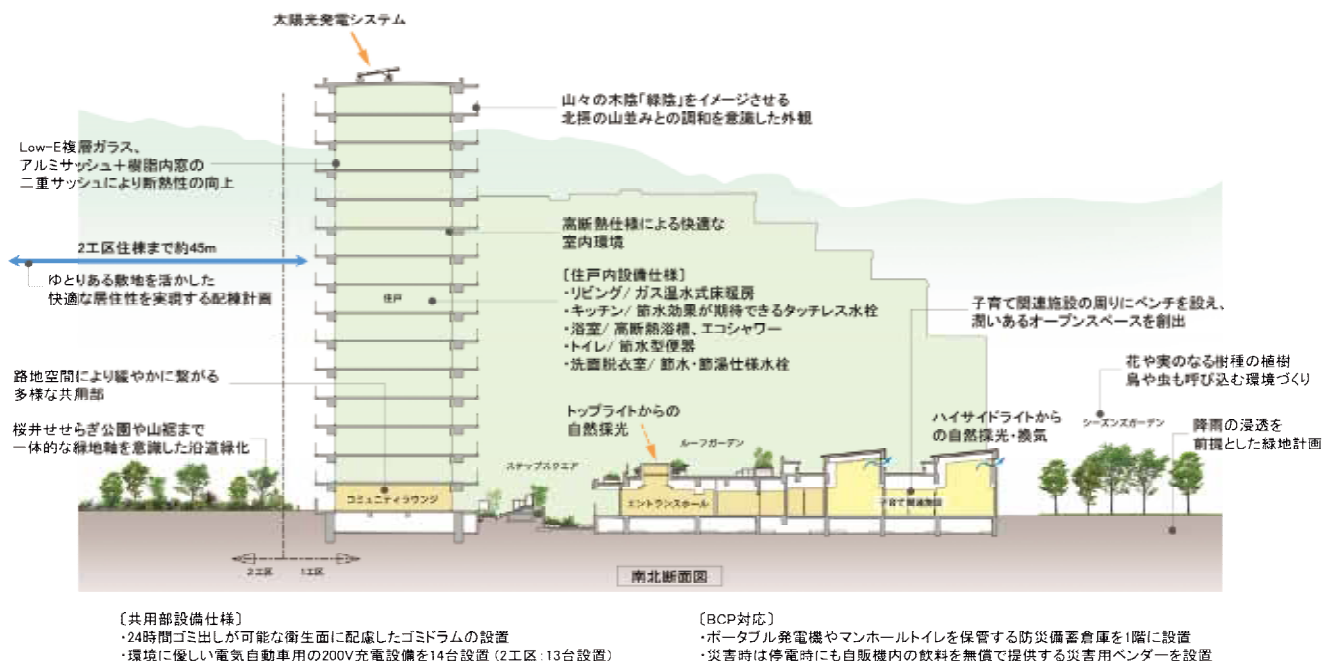
【総合的なコンセプト】

近傍にある豊かな自然環境との共生を意識し、新たに創出される里山風景と豊かな暮らしを目指した。コミュニティが自然と触れ合う環境で、継続して関係性を築くことができる外構や共用部と、省エネ性能に優れ安心して住み続けられる住戸を備え「面白く住まえる、成長する集合住宅」を総合的なコンセプトとし楽しく住み続けられる住まいを計画した。

主動線に沿って共用部を連結配置し、自然とも人とも触れ合えるオープンな設えが繋がる共用部は、本件2工区との連続性も備え、線路側の緑道から敷地南側に整備された桜井せせらぎ公園や山裾の幹線道路につづく緑地軸線に沿って、地域の方々とも景観を共有する。

住棟は「認定低炭素住宅」認定を取得し、断熱性能と省エネ性能が高く、CO₂排出量を減らす仕様に加え、太陽光発電、電気自動車充電設備を取り入れている。共用棟の一部区画を島本町に無償譲渡し、地域の方々とも交流を楽しめる子育て関連施設が入居するなど、官民一体のまちづくりを実現させた。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

□自然と調和する外観と多彩な共用部

- ・北摂の山並みとの調和を意識し、バルコニースラブによる影の積層が山々の木陰「緑陰」を想起させる外壁色で馴染みある外観とした。
- ・線路際の緑道側に施設の正面性を持たせ、「人が集まり楽しく暮らす」を共用部のコンセプトに、コミュニティを創出する居心地の良い交流の場で視線の交錯が生む楽しい空間連携を実現した。入居者も地域の方々も交流できる子育て関連施設も緑道側に顔を出し、地域貢献の連帯感醸成に繋がる計画とした。



季節の移り変わりを味わえる植栽を配置したステップスクエア(中庭)、ルーフガーデンは友達と談笑する身近なコミュニティの場となる。緑に包まれた気持ちの良い動線計画を実現すると同時に外部から見ても建物から緑があふれだすよう配植した。



入居期の異なる1工区と2工区を連結する共用通路では、多彩な共用空間が開口部を通じて緩やかに繋がる。通路には緑側として地元関西のヒノキで製作したベンチを設置。

□島本町の豊かな自然環境と繋がるランドスケープ

- ・公園風の散策路や共用棟の屋上に果樹や花・実のなる草木を植え、住民同士の活発な活動と野生小動物の生態系回復を促し、人と生態系が共存する未来に繋がる緑地を目指した。シーズンズガーデンには、土管を配した築山など好奇心をくすぐる遊びの広場もあり、ふれあいの森に置かれたベンチが周辺地域の家族や通行する人々の憩いの場として機能する。今後、民間の運営する保育・学童施設の利用者も交え、地域の子供たちや保護者も憩う光景が生まれる。
- ・本件の環境計画は、駅から線路沿い緑道と一体化して、桜井せせらぎ公園、更にその先の山裾までの緑地軸を意識し、周辺の自生種を中心に選定(※1)。区画整理区域内の陸ボタルの生態追跡、稀少種の草木類(※2)を復元した公園や水景等にも繋がり地域の環境醸成の拠り所になっている。

(※1 着工前生態系調査を実施、工事中も調査継続。※2 大阪府希少種のカワヂシャの自生が確認され水路際景観を復元した公園に隣接)



＜季節の花が咲くアプローチ＞



＜木の上に登ったようなルーフガーデン＞



＜ふれあいの森・遊びの広場＞



□環境配慮

- ・Low-Eペアガラスと外壁断熱の強化と、省エネ性能が高い設備の採用により、CO2排出量の削減と快適な室内環境の両立を実現。
- ・住棟屋上に太陽光パネルを設置し、再生可能エネルギーを共用部利用。
- ・環境に優しいEV車の充電設備を14台設置。(2工区：13台設置)
- ・飲料水の備えとして災害対応用ベンダーや、防災備蓄品を共用部に常備しBCP対応。
- ・アルカリイオン電解水により洗剤を使用しない共用コインランドリーや洗車スペースの採用により、不要な移動によるCO2排出を削減。
- ・入居者全員が利用できる共用のシェア物品貸し出しシステムを構築。廃油回収BOXの設置。集合住宅の強みを生かし、廃棄物削減とコミュニティの促進に貢献。



タッチレス水栓



ガス温水床暖房



高断熱浴槽



廃油回収BOX

□新街区内での暮らしを支えるコミュニティ組織の創設

周辺住民も加わる新たなコミュニティ組織を立ち上げ、専門スタッフによるコミュニティ活動をサポート。地元の自然体験会や、周辺店舗も参画するマルシェなど、さまざまなコミュニティプログラムを推進し、世代や垣根を超えて心豊かに暮らせる街づくりを目指す。



コミュニティプログラムの実施風景

グローバルエンジニアリングセンター

立地を活かし寄り添う、省エネとBCPを両立した、世界に羽ばたく次世代拠点

建築物概要

- 所在地：堺市西区築港新町2丁
- 建築主：エア・ウォーター株式会社
- 設計者：株式会社日立建設設計
西日本支社一級建築士事務所
- 用途：事務所
- 敷地面積：26,390㎡
- 建築面積：980㎡
- 延べ面積：5,823㎡
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上6階
- CASBEE評価：Aランク/BEE値2.0
- 重点評価：CO₂削減4.0/みどり・ヒートアイランド対策3.5/
建物の断熱性能5.0/エネルギー削減4.5/
自然エネルギー直接利用4.0



【立地、周辺環境】

堺市の臨海工業地区に位置する。

眼前には海が広がり、工場が多数林立する工業地帯の事業所内に立地する、産業・医療ガスエンジニアリング事業のグローバル拠点である。

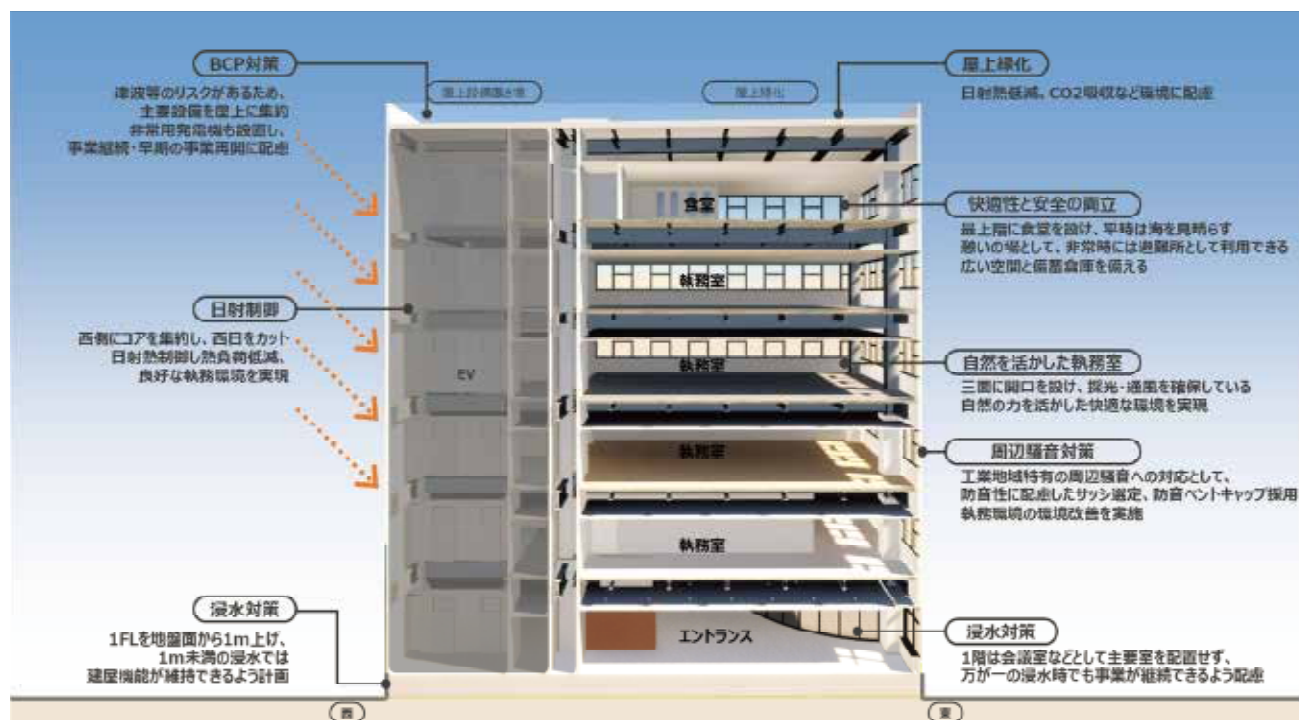
【総合的なコンセプト】

本建築は、「企業としての責任ある環境配慮」と「持続可能なウェルネスの実現」を両立することを目指した、製品製造事業所内の事務所棟である。建築そのものが企業理念を体現するシンボルとなるべく、**シンプルでありながら本質的な価値を重視**した計画を行った。

必要以上にコストやエネルギーを要する機器・構造はあえて採用せず、配置計画の工夫や自然環境活用、**環境性能とコストのバランス**に優れた設備機器の選定、リサイクル建材の活用など、環境負荷を最小限に抑える工夫を積み重ねた。

また、沿岸部に位置する立地特性を踏まえ、津波などの自然災害にも備えた**BCP(事業継続計画)**への配慮を随所に反映。非常時にも業務の中核機能を維持できる**シンプルかつ堅実な構造**を採用している。これにより、「**平時の快適性**」と「**有事の機能性**」を両立させた。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

平時の快適性 自然をうまく活用した環境配慮型ウェルネスオフィス

立地条件を素直に読み解き、環境への配慮を積み重ねた結果、ZEB Readyとして、認証を得ています。



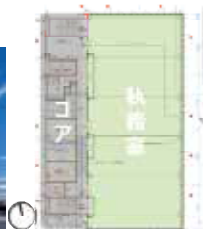
西日を制御するコア配置

西面にコアを集約し、日射熱制御と良好な執務環境実現を両立している。シンプルながら効果的な平面計画により、機器に頼りすぎることのない自然に対応した建築計画を実現した。

開放的な北東立面



抑制的な西立面



熱・音に配慮した建材選定

熱に対して、断熱性に優れた金属断熱サンドイッチパネルとLow-E複層ガラスを採用。敷地特有の条件として敷地周辺からの騒音があり、サッシやベントキャップも防音性に配慮した建材を選定している。

仕上と断熱を両立した
金属断熱サンドイッチパネル

防音ベントキャップ採用

Low-E複層ガラス採用

遮音性能T2以上を確保
したサッシ



三面採光・通風を実現した執務スペース

執務室は三面に窓があり、開放できるため、自然光・自然風を取り込める快適な環境となっている。照明は昼光センサー制御を行いエネルギー負荷低減を図っている。



執務室南を望む



執務室北東を望む

海を望むリフレッシュスペース

南側は海に面しており、その眺望を活かすために南側にリフレッシュスペースを配置しウェルネスに配慮。食堂は最上階に配置し、リフレッシュできる環境を実現



リフレッシュスペース



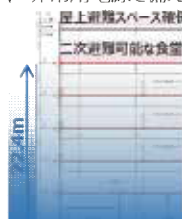
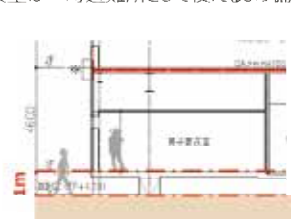
食堂

有事の機能性 働く方の安全・安心、事業継続性に配慮したレジリエンスオフィス

臨海部に立地し、津波・高潮等のリスクのある敷地のため、働く方の安全・安心を実現できる建屋計画とした。また、有事の際でも事業を継続する・早期に事業を再開することを念頭に、レジリエンスに配慮したオフィスを実現した。

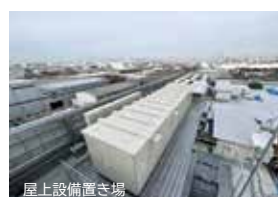
レベルに応じた複数の浸水対策を考慮した断面計画

1階床高を地盤面から1m上げることで、浸水被害を受けづらい断面計画としている。万一の津波の際は、屋上や最上階の食堂に避難するものとし、食堂は一時避難所として使えるよう備蓄倉庫・非常用電源を備えている。



有事に対応した設備計画

受電設備や空調などの設備機器は屋上に設置し、水没による機能停止を防いでいる。非常用充電機も設置し、最低限の機能維持を行っている。



屋上設備置き場



環境・機能とコストのバランスに優れた建屋計画

昨今の建設コスト上昇を踏まえ、シンプルで堅実な建屋計画としている。特殊解ではなく、最良の一般解を積み重ねZEB Readyを取得した。

バランスに優れた構造計画

レイアウトの自由度が高いフレキシブルな無柱の執務空間を実現しつつ、シンプルな箱型で柱梁もバランスよく配置した合理的な構造計画としている。柱は全てBCR材とできるよう構造検討しコストに配慮している。



コストバランスを考慮した意匠・設備計画

コストバランスを考慮した建材・設備を採用した。
・金属断熱サンドイッチパネル採用（仕上・断熱兼用、施工性配慮）
・人感センサ・昼光センサ・高効率LED照明採用（ランニングコスト削減）
・全熱交換器採用（空調負荷低減）

ALFALINK茨木1

ZEBを目指したエコ物流施設

建築物概要

- 所在地：茨木市東野々宮町
- 建築主：JDP3ロジスティック2特定目的会社
- 設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
デロイトトーマツPRS株式会社
- 用途：倉庫（倉庫業を営む倉庫）
- 敷地面積：68,690㎡
- 建築面積：29,855㎡
- 延べ面積：161,487㎡
- 構造：鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造
- 階数：地上6階
- CASBEE評価：Sランク/BEE値3.4
- 重点評価：CO₂削減5.0/みどり・ヒートアイランド対策3.5/
建物の断熱性能5.0/エネルギー削減5.0/
自然エネルギー直接利用4.0



【立地、周辺環境】

茨木市の南部に位置する巨大な再開発として、水と緑豊かな田園風景に広がる敷地に、物流施設3棟を中心に公園やホームセンター等から構成される。敷地周囲には淀川や安威川が隣接し浸水想定区域内となるため、水害時の対策が与件となっている。

【総合的なコンセプト】

「物流を身近な存在にし、人々の日常の延長にある物流施設」を目指して設計。6階建マルチテナント型物流倉庫となり、倉庫棟と一般開放された共用棟で構成される。

環境的な視点のコンセプトとして、「環境・BCPへ配慮した拠点施設」「健康性・快適性を有する物流施設」「まちづくりと地域への展開」の三つのコンセプトを定め、先進的で開放されたエコ物流施設の先導的モデルとなるサステナブル建築計画を目指した。

建物断面構成図



C-Create手法
A-Active手法
P-Passive手法

環境配慮事項とねらい

Passive 手法

防災拠点としての物流施設

■最大浸水ラインより上に物流施設3棟をつなぐブリッジと共用棟



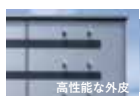
3棟をつなぐブリッジと共用棟



共用棟とブリッジ

高断熱の外装材・屋根材

■断熱性能向上を図る仕様
外壁：サンドイッチパネル
屋根：ダブル折板屋根



高性能な外皮

冷凍冷蔵車対応排気ガス抑制コンセント

■冷凍冷蔵車のトラックベースにスタンバイ機能付き冷凍冷蔵車専用コンセントを設置し、待機時の排気ガス排出量削減により環境に配慮している。



専用コンセント

緑の街区・緑のネットワーク

■緑地公園を整備することで自然、鳥や昆虫の生態系を保存し、ワーカーの憩いの空間とする。
また、マルチコートなどスポーツが楽しめる場所を整備することで、地域の人々がくつろぎ楽しめるエリアを提供している。



マルチコート

プレキャストコンクリート (PCa)

■地上の柱と梁をPCa化することで、コンクリート材料を削減している。
■工事の合理化及び長寿命化からLCCO2削減に寄与している。

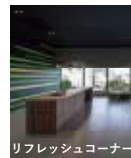


建物の快適性

■共用部は倉庫というスケールで巨大な寸法の中に、人が佇む小さい素材感のある空間を挿入することで、物流のダイナミズムを身近に感じると共にどこか心が休まる居心地の良い場所を生み出した。



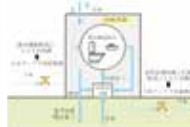
ラウンジ



リフレッシュコーナー

常時・災害時に井水、雨水の中水利用 (BCP)

■ZWBの思想を取り得た上水使用量の削減の取組みとして、雨水利用設備の導入のほか、井水利用設備を併設し、いずれも再生水として利用することで、中水用途の水を全量再生水で賄う計画としている。また地域インフラへの負担軽減に貢献する。敷地内で再生水を利用することで、地域内のCO2排出量が抑えられるため、脱炭素化にも貢献する。



免震装置と免震ギャラリー (BCP)

■免震装置を近くで見ることができる免震ギャラリーを設けることで防災や安全の重要性を問う施設とした。
■計284基の免震装置を設置し地震時の揺れを抑え建物の損傷を低減し、建物の耐用年数を大幅に向上させる計画とした。
■倉庫の荷物や働く人を地震から守り、建物の安全性に配慮した。



免震ギャラリー

Active 手法

半自然換気システムの構築

■休憩室に半自動換気システムを導入している。外気の温湿度条件が適切な場合に窓開閉サインが点灯し、利用者自身でコントロールスイッチを操作し、そよ風ファンの連動によって自然換気に切り替えることができる。



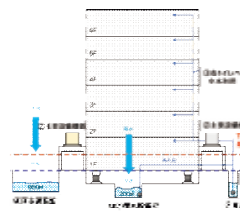
半自然換気システム



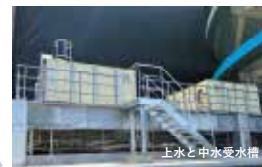
窓開閉サイン

主要設備機器 ウォーターハザード (BCP)

■倉庫棟は免震構造により、地震時等によるダメージを軽減する他、電源設備や衛生設備等の主要設備機器を最大浸水ラインより上部に設置し、浸水時も建物機能が維持できるように計画した。



水害対策をふまえた対策概念図



上水と中水受水槽

高効率 LED 照明と昼光センサー

■全館 LED 照明を採用し、トイレ・喫煙室などは人感センサー及び事務室は昼光センサーにより省エネルギーに寄与している。



倉庫内 LED 照明

室内空気質の向上

■共用部の休憩室に室内のCO2濃度管理のためにCO2濃度センサーを設置している。



CO2 濃度センサー

超節水型衛生器具

■超節水型衛生器具の採用により、水資源の保護を実施した。



節水型衛生器具

非常用発電機にて保管回路に給電 (BCP)

■非常時対応として非常用発電機電源を設置し、燃料を24時間分確保、24時間経過後は燃料補給契約により継続利用できる計画とした。



非常用発電機

Create 手法

太陽光発電

■屋根面の大部分に約2456KWの太陽光発電設備を設置。



太陽光発電パネル

環境性能認証

BELS (ZEB) 認証取得

■省エネ技術の導入やエネルギー管理などにより、一次エネルギー量を基準値の半分に削減し、残りのエネルギー量を太陽光発電で賄うことで「ZEB」認証を取得



LEED GOLD 認証取得

■サステナブル物流施設となるように LEED に取組み、「LEED GOLD」認証取得



大阪大学・日本財団感染症センター

新しい世界を切り開く人々の総合知を創出・実装する「宇宙船地球号」

建築物概要

- 所在地：吹田市山田丘
- 建築主：国立大学法人大阪大学
- 設計者：大成建設・日建設計
特定建設工事共同企業体（デザインビルド）
- 用途：大学
- 敷地面積：10,426㎡
- 建築面積：2,354㎡
- 延べ面積：17,619㎡
- 構造：鉄筋コンクリート造
- 階数：地上10階
- CASBEE評価：Sランク/BEE値3.0
- 重点評価：CO₂削減4.4/みどり・ヒートアイランド対策2.5/
建物の断熱性能5.0/エネルギー削減5.0/
自然エネルギー直接利用4.0



【立地、周辺環境】

千里丘陵にある大阪大学吹田キャンパス内、南西に位置し、周辺は病院、研究施設に囲まれている。万博公園の万博外周道路に面し、万博公園や大阪モノレールからその特徴的な建物の姿を確認できる。

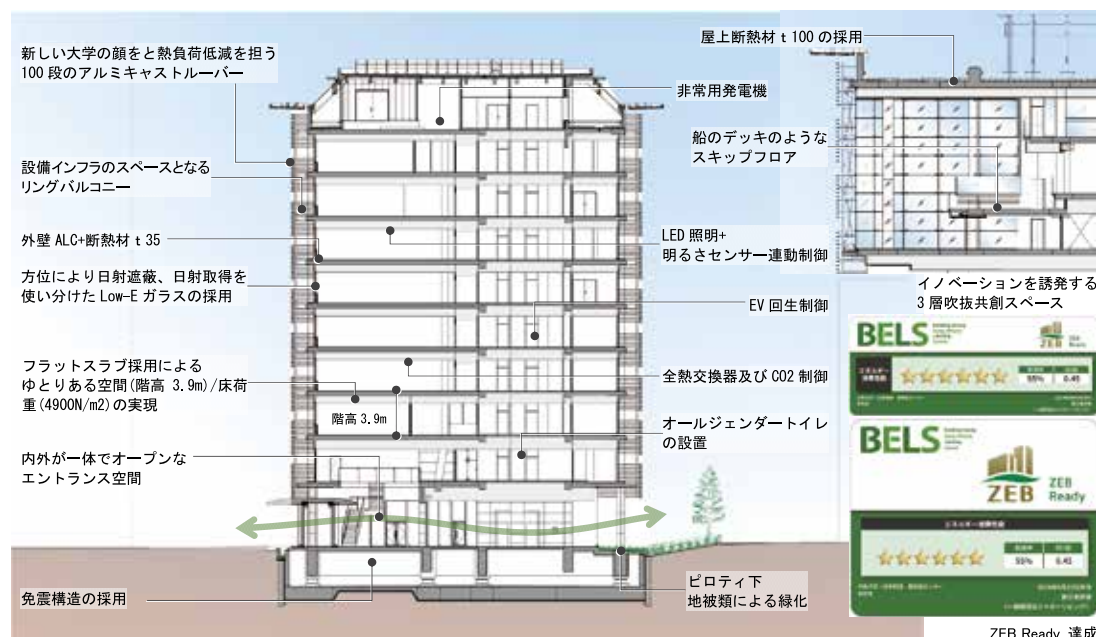
建物の7-9Fにある共創スペースからは大阪の都心部を一望できる。

【総合的なコンセプト】

日本財団と大阪大学が、「感染症による将来の脅威に備え、人々の命と暮らしを守るとともに、社会・経済活動の維持に貢献することを目指して、感染症に関する研究、人材の育成、社会への情報発信及び研究成果の社会実装を推進する。」ことを目的に、文理融合の総合教育研究拠点として整備した。基本デザインとして、建築家 安藤忠雄氏より「宇宙船地球号」というメカニカルな金属ルーバーに覆われた楕円形の研究施設形状が提示された。

最先端の研究が可能な研究施設や共創空間に加え、ZEB ReadyおよびCASBEE Sの環境性能と、研究者と研究を守る免震構造などの強固なプラットフォームとなる施設を実現した。あらゆる側面から感染症の知見を発信する「現代のノアの箱舟」として、日本-アジア-世界の中心となることを期待されている。

建物断面構成図

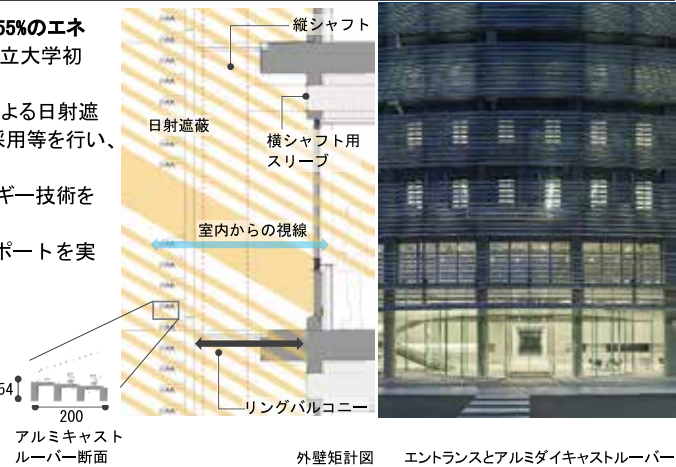
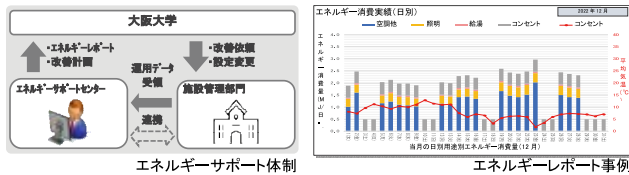


ZEB Ready 達成

環境配慮事項とねらい

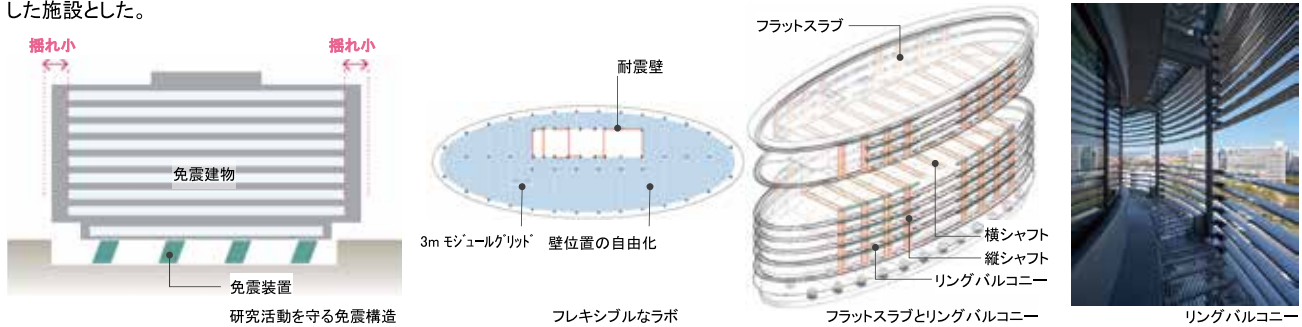
● 延べ床面積 10,000 m²以上の新築研究棟として国立大学初の ZEB Ready 認証取得

- 様々な省エネルギー技術を採用し、基準一次エネルギー消費量から、**55%のエネルギー削減**を実現。延べ床面積 10,000 m²以上の新築研究棟として国立大学初 ZEB Ready 認証を取得した。
- 外皮熱負荷を低減するために、100 段のアルミダイキャストルーバーによる日射遮蔽、方位により日射遮蔽・日射取得型を使い分けた Low-E ガラスの採用等を行い、**BPI=0.80**を確保した。
- 高効率空調機の採用、外気導入量の最適化、LED 照明等の省エネルギー技術を採用し、**BEI=0.45、ライフサイクル CO₂ 削減率 63%**を実現した。
- 建物運用後のエネルギーを分析し、運用提案を行うエネルギーサポートを実施し、一層の省エネルギーを促進する。



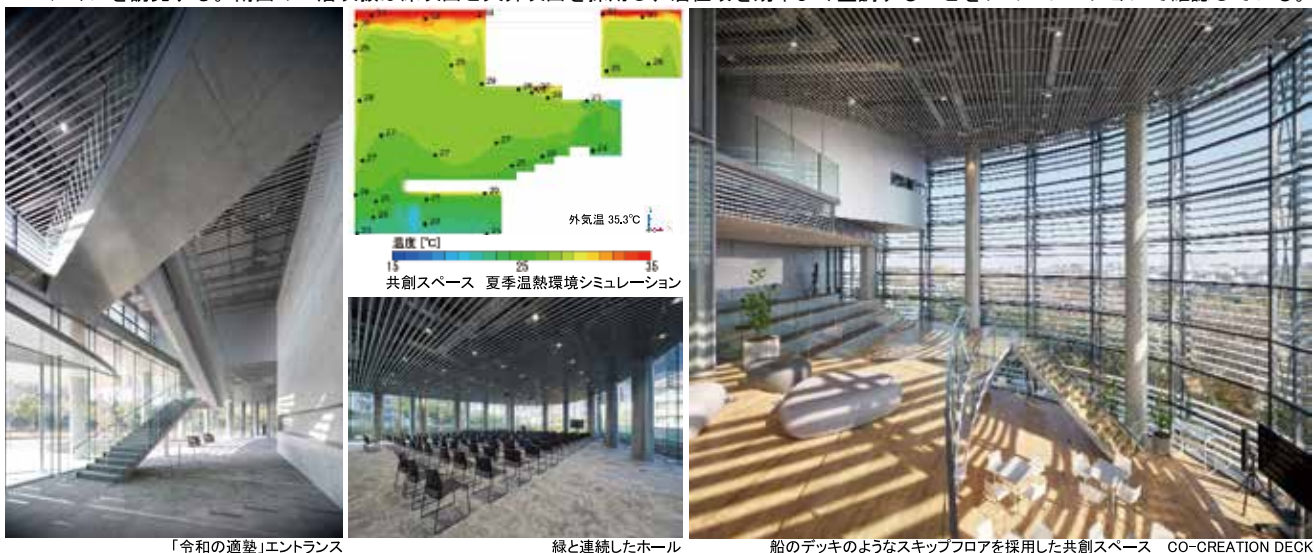
● 強固で接続可能な世界最高水準研究基盤の整備

- 研究活動を災害などで途絶させないよう**免震構造**や 72 時間稼働非常用発電機を設置した。
- 建物内はコンクリート梁がない**フラットスラブ**の採用や、建物外周部には回遊可能な**リングバルコニー**を設け、水平や縦がフレキシブルな設備インフラートを確保した。また、研究環境の変化にフレキシビリティに対応するために、**3m モジュールの採用**、コア部分以外の**耐震壁を無くす**ことにより将来の間仕切り変更も自由にできるよう配慮した。
- 国際的な研究施設としてのダイバーシティ/インクルーシブへの対応として、**オールジェンダートイレ (AGWC)**や**バリアフリー移動等円滑化基準**を満たした施設とした。



● 異分野の国際的な専門家がひとつ屋根の下で、総合知を創出・実装する

- 2 層吹抜の打ち放しコンクリートの壁が人々を迎えられるエントランスは、情報発信やセミナー前後の交流、イベントなどの多様な利用形態を受容する。またエントランスに隣接する 2 つのホールはガラスカーテンウォールとすることで透明感を作り出しピロティを覆う地被植物から外部の緑を連続して望むことができる。
- 現代社会が直面する多様な感染症の脅威に立ち向かうため、異分野の専門家が集まり平時・有事を問わず総合知を創出・実装する場として、7-9 階の南側に 3 層吹抜の共創スペース (CO-CREATION DECK) を配置した。船のデッキのようなスキップフロアを採用したステージ状の空間はミーティングやプレゼンテーション等多目的に使うことができ、万博公園を 180° 望む開放的な空間が研究者に刺激を与え、イノベーションを誘発する。南面の 3 層吹抜は床吹出と天井吹出を採用し、居住域を効率よく空調することをシミュレーションで確認している。



阪南大学 新4号館

にぎわいと交流が広がる、緑あふれるウェルネスな学びの拠点

建築物概要

- 所在地：松原市天美東5丁目
- 建築主：学校法人阪南大学
- 設計者：株式会社日建設計
一級建築士事務所
- 用途：大学
- 敷地面積：4,340㎡(仮想敷地設定)
- 建築面積：2,706㎡
- 延べ面積：9,890㎡
- 構造：鉄骨造、一部鉄筋コンクリート造
- 階数：地上5階
- CASBEE評価：Aランク/BEE値1.5
- 重点評価：CO₂削減3.9/
みどり・ヒートアイランド対策2.5/
建物の断熱性能5.0/エネルギー削減4.3/自然エネルギー直接利用4.0



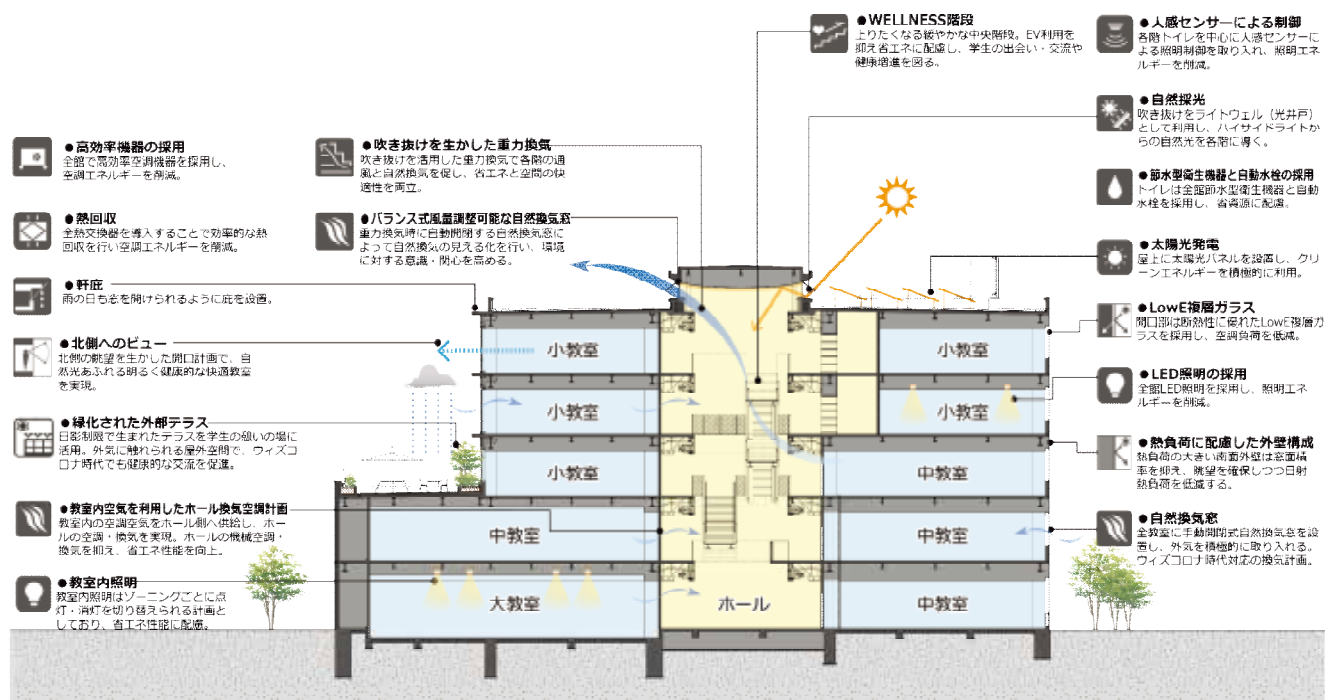
【立地、周辺環境】

計画地である阪南大学本キャンパスは、大和川沿いの緑豊かな地域に位置し、周囲は静かな住宅街と自然が調和した落ち着いた環境が広がっている。今回建物の計画地は、キャンパスの中でも特に学生で賑わう、キャンパス中庭に面した場所。

【総合的なコンセプト】

- ・ 阪南大学の学部再編とキャンパス統合による学生数増加に対応するための、学内最大規模の新教室棟建て替え計画。
- ・ 授業の合間やランチタイムに学生が集う中庭に面して、段状にセットバックする緑豊かなテラス空間と緑に囲まれた緩やかな屋外階段を設けることで、中庭から連続的に学生のにぎわいが展開し、緑と風を感じられるウェルネスな学生の居場所づくりに配慮した。
- ・ 建物中央に5層吹き抜け空間を設け、その周囲にコモンスペースを計画することで、動線と交流の中心を創出した。吹き抜けを利用した重力換気や自然採光を導入することで、学生が集まる中心的な居場所が省エネルギーの工夫を取り入れた快適な空間となる計画とした。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

●キャンパス中庭から学生を引き込む、段状に連なる緑あふれる学生の居場所

**中庭のにぎわいを引き込む、
ウェルネスな学生の居場所**

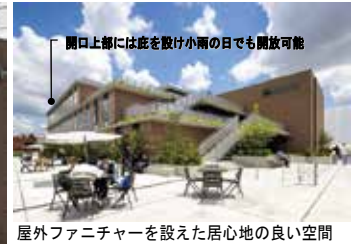
既存キャンパス中庭に面するように段々状のテラス空間を計画する。テラス形状は北側日影制限をクリアするために生まれた合理的な形状であり、緩やかな屋外階段によって、中庭から一体的につながる生徒のにぎわい空間の創出に寄与している。

テラスには豊かな植栽を配置し、ヒートアイランド抑制に配慮した計画としており、屋外ファニチャーを設えることで、緑あふれる空間の中で積極的なコミュニケーションが生まれる計画とした。

テラスを構成する大きな庇の下が学生の居場所となり、居心地の良い半屋外コミュニケーション空間になっている。庇や緑化、登りたくなる階段などを組み合わせることで、エネルギー消費を抑えて、生徒がウェルネスに交流できる空間を創出した。



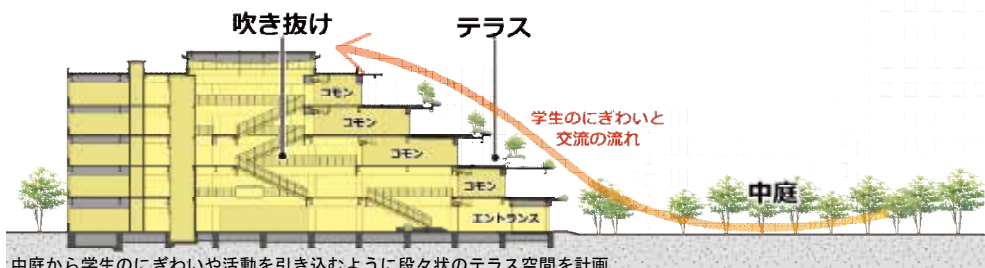
緩やかにつながる屋外階段により、のほりたくなる緑豊かなテラス空間を演出する



屋外ファニチャーを設えた居心地の良い空間



テラスの庇下が学生の憩いの空間になる



中庭から学生のにぎわいや活動を引き込むように段々状のテラス空間を計画

●交流を育む動線と環境配慮を融合した空間デザイン

**省エネルギーの工夫が詰まった
吹き抜け空間が学生のアク
ティビティの中心となる**

建物内部の中心は、学生のメイン動線となる中央の階段状の吹き抜け空間である。階段周囲には学生のたまり空間となるスペースを設け、エレベーター使用を抑制しながら、授業の合間に学生たちが行き交い、出会いや交流が生まれる動線計画としている。

各階、西面のテラスに面してオープンコモンスペースを配置し、テラスと連続した居心地の良い空間とすることで、室内外に学生の活動が広がっていき、建物全体に学生の賑わいが広がる計画とした。

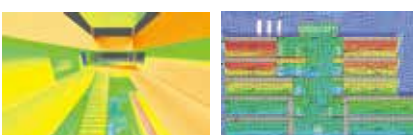
学生が集う中央の吹き抜け空間が、省エネルギーの工夫を取り入れた快適な空間となるよう、設計段階で環境シミュレーションを活用した。吹き抜け上部を立ち上げ、重力換気でハイサイドライトから校舎内の空気を排出し、自然換気を促進して空調・換気負荷を低減。曲面仕上げの天井はハイサイドライトからの光を柔らかく取り込み、照明エネルギー削減に貢献している。



環境配慮と学生の活気が融合する吹き抜け空間



テラスに面する居心地の良いコモンスペース



自然採光シミュレーション

重力換気シミュレーション

●堅実で身近な省エネ・省資源手法の導入

身近で一般的な省エネルギー・省資源手法を積極的に取り入れた、使いやすく環境にやさしい学び舎のデザイン
新校舎では、身近で一般的な省エネ・省資源の工夫を随所に取り入れている。これにより、学生たちが普段の生活の中で意識せずとも省エネや環境配慮に貢献できるような学び舎をデザインした。



全熱交換機・高効率機器・ゾーンごとのLED照明制御を取り入れた大教室



省資源化・設備更新性に配慮したスケルトン天井



北側への明るく開けた眺望



節水器具と人感センサーを取り入れたWC



日射を遮る深い軒庇の設置

グラングリーン大阪 北館・南館・VS.

職 遊 学 泊の都市機能と「みどり」が混ざり合い、「イノベーション」を生み出す環境配慮型の大規模複合開発

建築物概要

- 所在地：大阪市北区大深町
- 建築主：三菱地所株式会社、大阪ガス都市開発株式会社、オリックス不動産株式会社、関電不動産開発株式会社、積水ハウス株式会社、株式会社竹中工務店、阪急電鉄株式会社、うめきた開発特定目的会社
- 設計者：株式会社日建設計一級建築士事務所
株式会社三菱地所設計関西支店一級建築士事務所
株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所
株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
- 用途：事務所、ホテル、飲食店舗、物販店舗 他
- 敷地面積：(北館)8,403㎡ (南館)25,262㎡ (VS.)2,825㎡(仮想敷地設定)
- 建築面積：(北館)5,027㎡ (南館)17,023㎡ (VS.)666㎡
- 延べ面積：(北館)64,779㎡ (南館)317,510㎡ (VS.)3,637㎡
- 構造：(北館・南館)鉄骨造、一部鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造 (VS.)鉄筋コンクリート造
- 階数：(北館)地上26階/地下3階 (南館)地上39階/地下3階 (VS.)地上2階/地下1階
- CASBEE評価：(北館)Sランク/BEE値3.0 (南館)Sランク/BEE値3.0 (VS.)Aランク/BEE値1.6
- 重点評価：(北館)CO₂削減4.0/みどり・ヒートアイランド対策5.0/建物の断熱性能4.0/エネルギー削減4.0/自然エネルギー直接利用5.0
(南館)CO₂削減4.0/みどり・ヒートアイランド対策4.0/建物の断熱性能4.0/エネルギー削減4.0/自然エネルギー直接利用4.9
(VS.)CO₂削減3.0/みどり・ヒートアイランド対策4.0/建物の断熱性能5.0/エネルギー削減2.0/自然エネルギー直接利用4.0



【立地、周辺環境】

JR大阪駅直結、梅田貨物駅跡地の「うめきた地区」の2期開発。中央の45,000㎡の都市公園「うめきた公園」と連続して南北の民間敷地で38万㎡の事務所、商業施設、3つのホテルを公園と一体的な「みどり」が中心の都市空間として計画する。

【総合的なコンセプト】

まちづくり方針「みどり」と「イノベーション」の融合拠点として計画されたグラングリーン大阪は、各敷地を統合して豊かなランドスケープを整備することにより①温室効果ガスの削減 ②空気の浄化 ③温熱環境の改善(クールスポットの創出) ④生物多様性の促進を行っています。カーボンニュートラル実現に向けて①地域冷暖房による街区間熱融通(北館・南館) ②帯水層蓄熱による効率的な冷暖房運転とヒートアイランド抑制(北館・南館) ③バイオガス発電によるエリア内資源循環(南館) ④地中熱利用による効率的な冷暖房(VS.)を採用、CO₂排出量の削減率35%以下を目標に掲げています。また持続可能な森林の国際認証を取得した南洋材や伐採適齢期の国産木材等の木材を積極的に利活用し、炭素固定に貢献しています。

上記により、国際的な環境性能認証制度「LEED」の、まちづくり部門「ND(Neighborhood Development:近隣開発)」のプラン認証、ランドスケープのサステナビリティを評価する「SITES」予備認証でGOLD評価を同時取得、「DBJ Green Building 認証」、「ABINC ADVANCE 認証」、「ZEB Oriented 認証(事務所部分)」、「CASBEE スマートウェルネスオフィス認証」も取得。

国交省・環境省の「脱炭素都市づくり大賞」特別賞、「サステナブル建築物等先導事業(省CO₂型)」にも採択されています。



建物断面構成図



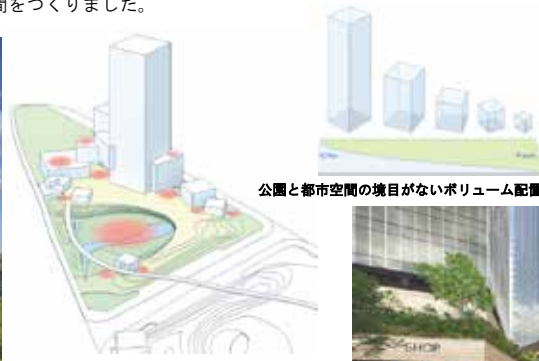
環境配慮事項とねらい

■公園の緑を取込む建築計画（屋上緑化と北館ピロティ、南館パレイ）

- ・扇状に広がる貨物駅の名残を見せる特徴的な敷地形状に「**正方形プランを角度を振って配置**」することで、**緑地や賑わいが貫入する「間（ま）」**をつくりました。この「間」が**光、風、緑**などを感じる、**建築とランドスケープの接点を増やす余白**となり、来街者は敷地内へと自然と引き込まれ、思いがけない様々な出会いや気づきを生みます。
- ・公園内のスモールな体験スケールから隣地開発の都市スケールまでの建築ボリュームを同一形状で配置し、敷地境界や道路を超えてグングリーン大阪の大小様々なブロックが角度を振って重なり、**周囲の街とも良く馴染む矩形の群造形に「みどり」が境界を越えて浸透**し、街に広がる賑わいの起点となります。
- ・**建築とランドスケープの領域を一体的にとらえた空間**が「うめきた」らしい寛容なパブリックスペースを生み、誰もが自分の「居場所」と感じられる居心地の良い空間をつくりました。



みどりのスパイラル（北館）



公園と都市空間の境目が無いボリューム配置

公園と一体の緑計画（北エリア）



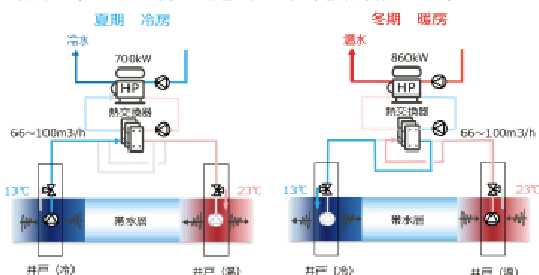
屋上緑化（北館）



パレー状のショーケース空間（南館）

■省エネルギーかつヒートアイランド抑制の最先端技術（北館・南館の帯水層蓄熱）

- ・夏季の冷房時に生じる**温排熱を帯水層に蓄え**、冬季の暖房熱源に活用し、冬季の暖房時に生じる**冷排熱を帯水層に蓄え**、夏季の**冷房熱源に活用**するシステムを実装しました。蓄えた排熱を利用することで、**効率的な冷暖房運転が可能**となり、夏季の大気放熱が無くなり、**ヒートアイランド抑制にも貢献**します。汲み上げた地下水は、熱エネルギーのみを採りだしたあと、全量を同一帯水層に戻すことで、地盤沈下を回避します。地下水採取規制区域において、環境省実証事業での成果を踏まえ、**国家戦略特区を活用した全国初の社会実装を実現**しました。
- ・2024年9月の先行開業以降、北館において9月の3日間の**冷房試運転で機器単体のCOP: 9.1、システムCOP: 5.7**、同年12月～3月までの**冬季暖房運転で機器単体のCOP: 5.8、システムCOP: 4.5**を確認しました。また、**暖房運転で合計 62,700 ㎡を湯水（還水）し、冷排熱蓄熱量: 1,410GJ**となりました。



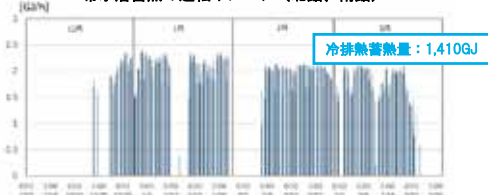
帯水層蓄熱の運転イメージ（北館、南館）



夏季冷房試運転3日間における時刻別平均COP（北館）



環境技術プロット（北館、南館、VS.）



冬季暖房運転における日別冷排熱蓄熱量（北館）



冬季暖房運転における時刻別平均COP（北館）

■資源の徹底利用（バイオガス発電：南館）

- ・**生ごみ及び厨房排水中の有機物をメタン発酵によりメタンガスに変換し、コジェネレーションにより電気及び熱（温水）に変換**するシステムを実装しました。**生ごみ等の発生場所と同じ場内にてエネルギー変換が可能となり、脱炭素とリサイクルを両立**でき循環型社会の構築に貢献します。
- ・また設備が設置される南街区賃貸棟の生ごみだけでなく、一部の公園施設で出た生ごみもバイオガス設備を活用することで、街区全体の生ごみ排出量の削減を目指します。
- ・メタン発酵槽外部に設置したポンプによる攪拌方式を採用する新システムを採用し、**発酵槽上部のスペースが不要となり必要な階高が低減**でき、**設置場所選定の柔軟性を広げることが可能**となりました。

■ZEB Orientedの実現（南館）

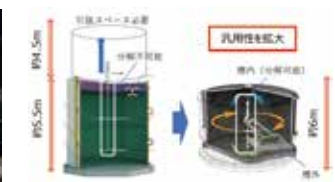
- ・南館では**ZEB Orientedの認証（オフィス BEI: 0.57）**を取得しました。



バイオガス設備機械室（メタン発酵槽等）



バイオガスシステムフローイメージ



メタン発酵槽の改良

グランドメゾン北堀江レジデンス

都心に、新しい豊かさをつくる大規模レジデンス

建築物概要

- 所在地：大阪市西区北堀江2丁目
- 建築主：積水ハウス株式会社
- 設計者：株式会社現代総合設計
- 用途：共同住宅
- 敷地面積：2,205㎡
- 建築面積：1,366㎡
- 延べ面積：20,946㎡
- 構造：鉄筋コンクリート造
- 階数：地上19階/地下1階
- CASBEE評価：Aランク/BEE値1.5
- 重点評価：CO₂削減4.0/みどり・ヒートアイランド対策3.0/建物の断熱性能4.0/エネルギー削減5.0/自然エネルギー直接利用3.0

【立地、周辺環境】

敷地は大阪市西区北堀江、なにわ筋に面した敷地である。周囲には阿弥陀池公園や新町南公園をはじめ様々な公園が点在しており、大阪市内でも緑が豊富なエリア。また、堀江小学校や中央図書館などの教育施設もあり、文教的な雰囲気も持ち合わせた落ち着いた街並みである。

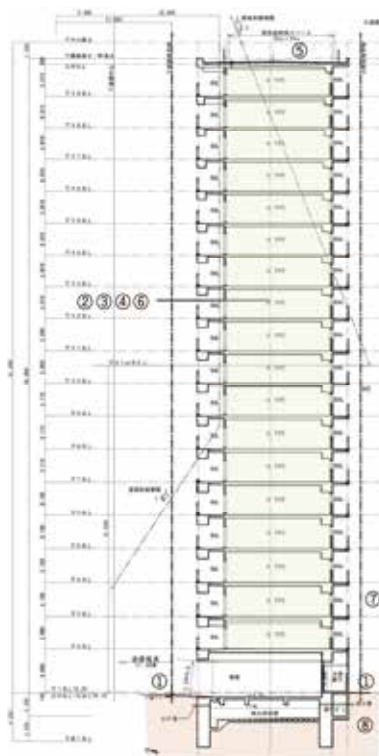
【総合的なコンセプト】

約40mにわたり接道するなにわ筋沿いを緑豊かな空地として整備し、なにわ筋の街路樹と呼応した街並みを形成した共同住宅の計画。

白を基調とした外観と足元に豊富に植えられた植栽が、都心の余韻を感じながらゆったりと心を和らげられる場となることを目指しています。



建物断面構成図



- ①接道するなにわ筋沿いを緑豊かな空地として整備し、街路樹と呼応した街並みを形成
この地域の在来種である緑豊かな植栽を配置。また、敷地北西側にプロットを型
張し地域の憩いの場となる。
- ②高断熱・高効率設備を搭載し、ZEHIMOrientedを取得
Low-E複層ガラスの約3倍の断熱性能を発揮する高性能複層エアガラスを全戸開口部
に採用し、各住戸のスタッフ室全面へ断熱を施すなど、北海道のZEH基準を超える高い断
熱性能を実現。更には高効率型エアコン等の環境配慮に優れた先進設備を導入することで
ZEH-MOrientedを取得。
- ③全住戸（178戸）に次世代家庭用燃料電池を設置
高いエネルギー利用効率の次世代家庭用燃料電池により発電を行うとともに、排熱を利用
した給湯・温風り等により、大規模なCO₂削減効果を実現。
- ④高効率照明（LED）の採用
照明はLED照明を全面的に採用し、省エネとメンテナンス効率を向上。
- ⑤太陽光発電パネルを設置（屋上）
太陽光発電パネルの設置により再生可能エネルギーを導入し、創り出した電力を共用部
にて有効利用。
- ⑥非常用自家発電機を設置、また次世代家庭用燃料電池の自立運転
非常用自家発電機を設置、全戸停電時にも自立運転で発電を継続、レジリエンス性能を強化。
- ⑦電気室を中央棟2階に設置
排水等の災害対策として、電気室は2階に設置。
- ⑧消防用水槽・デスポーザー処理槽設置
防災対策としての地域の有事でも利用できる貯水確保の整備、生ごみ減量を実現。

環境配慮事項とねらい

脱炭素を進め、地球環境を守る。
持続可能な社会の実現を目指す。

Green First

「サステナブルな社会を創る」は、環境・社会・経済の3つの柱を軸に、持続可能な社会の実現を目指す。環境・社会・経済の3つの柱を軸に、持続可能な社会の実現を目指す。

ZEH-M(ゼットエム)とは

「ZEH-M(Zero Emission)」とは、省エネルギー・省資源・省コストを実現する、環境配慮型住宅の総称。省エネルギー・省資源・省コストを実現する、環境配慮型住宅の総称。



国産熱・高効率空調を搭載し仕入れ仕方で「ZEH-M(Zero Emission)」を取得します。

国産熱・高効率空調を搭載し仕入れ仕方で「ZEH-M(Zero Emission)」を取得します。国産熱・高効率空調を搭載し仕入れ仕方で「ZEH-M(Zero Emission)」を取得します。



エネルギー消費量を大幅に削減する高効率な設備を多数に



周囲の街並みに緑の彩を添える植栽計画。

3本は鳥のため、2本は蝶のために、地域の在来種を積極採用するという、積水ハウスならではの「5本の樹」の考え方にもとづき、この地に自生する在来種を多く植栽。東西の沿道部に豊富な植栽ボリュームを設け、街並みにさらなる緑の彩を加えます。



イノゲート大阪

駅開業150年の時を継ぎ、街を繋ぐ大阪駅ビル

建築物概要

- 所在地：大阪市北区大深町、梅田3丁目
- 建築主：西日本旅客鉄道株式会社、
JR西日本ステーションシティ株式会社
- 設計者：西日本旅客鉄道株式会社一級建築士事務所、
株式会社大林組一級建築士事務所
- 用途：事務所、飲食店舗
- 敷地面積：3,836㎡
- 建築面積：3,703㎡
- 延べ面積：60,411㎡
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上23階/地下1階
- CASBEE評価：Aランク/BEE値1.6
- 重点評価：CO₂削減3.0/みどり・ヒートアイランド対策3.0/
建物の断熱性能4.0/エネルギー削減2.0/自然エネルギー直接利用4.0



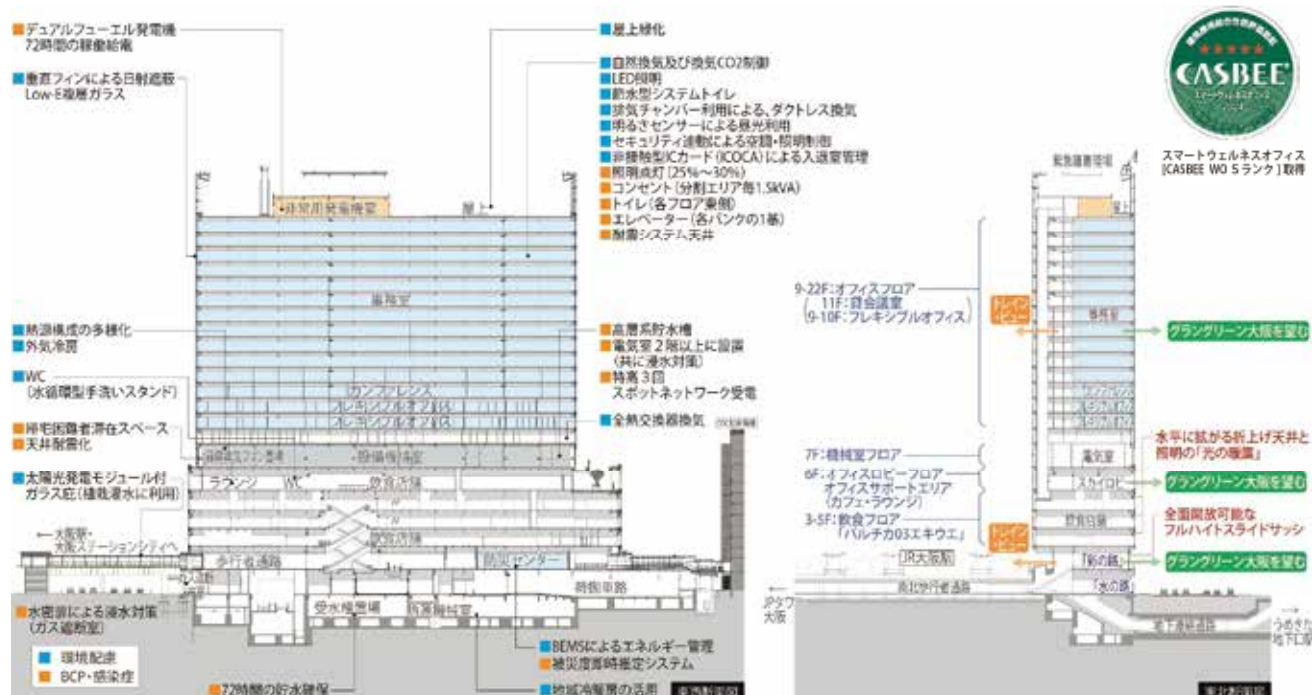
【立地、周边环境】

JR大阪駅を内包する大阪ステーションシティの新たな駅ビルとして、鉄道公共の一部を解体し増築した。JR大阪駅の新たな改札(西口改札)の供用開始、さらにはうめきた2期「グラングリーン大阪」の先行まちびらきを受けて、西へ拡張する大阪駅の玄関口と新しい街の回遊拠点の役割を担う。

【総合的なコンセプト】

- ・ 鉄道軌道沿いの東西160m、南北17～30mの細長敷地を最大活用した超薄型高層ビルである。
- ・ 鉄道側(南側)にガラスシャフトのEVコアを集約し、ガラスカーテンウォールで覆われた貸床を公園側(北側)に最大化することで、敷地南北の恒久的な空地を室内に取り込み、新たな大阪梅田の景観と環境を全面に享受する。
- ・ 建築物の負荷低減に加え、BCPや感染症対策など働く人の環境価値の向上により、スマートウェルネスオフィス〔CASBEE WO Sランク〕取得。
- ・ 駅の玄関口となる1・2階の歩行者通路はアートや移動可能なスツルが備えられ、特に2階レベルでは既存建物と緑豊かな歩行者通路で接続し、大阪駅からグラングリーン大阪までを繋ぐ回遊拠点としてまさに貢献する。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

環境負荷低減する外観計画



- ・北、東、西面の高層部は三角形の日射遮蔽ルーバーにより、西日を遮りながらも北側のグラングリーンへの眺望を最大限確保。
- ・周囲の超高層ビルの景観に調和しつつも、北東角は斜辺に切り取った形状のガラスファサードと夜間のライン照明により駅前超高層ビルのランドマークとして特徴化。
- ・低層部は大阪駅のゲートと駅名サインを掲げることで、駅の玄関口であることの認識しやすさに寄与。
- ・鉄道側はシーソーEVとし、EVシャフトを利用したダブルスキンのガラスファサードにより鉄道騒音と熱負荷の抑制とともに、外部への緩動線の視覚化、内部からは列車のある景色を望める外装計画。

多様化するオフィスニーズに対応する執務室フロアの計画



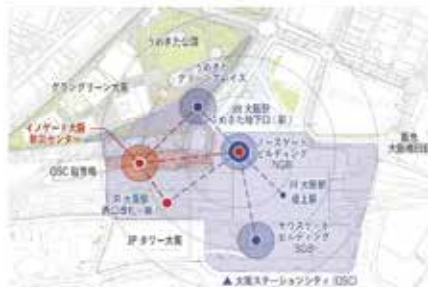
- ・オフィス貸室の窓面からの奥行きを深さを変化させる細長の台形の基準階平面は、多様なニーズと利用に応え、北側からの穏やかで安定した採光と都市公園への景観を享受。
- ・オフィス低層フロアには貸し会議室やワークスペースを備えることで、一般フロアのオフィス入居者を含めフロアを跨いだ連携利用を誘発し、駅直上のオフィスビルとしてワーカーの拠点となる場所を目指す。
- ・6F ラウンジにはオフィスシェアスペースや会議室、サイネージメディアを備え、ワーカーと来訪者の交流の場としている。

ウェルネス・オフィスを実現するオフィス階共用部



- ・6F オフィスラウンジには、カフェと屋外の緑のあるスカイテラスを設け、屋外のリフレッシュ空間を設けている。
- ・オフィス基準階の共用部は、木仕上げの壁のゆとりある通路スペースと共に、南側にはダブルスキンのガラスファサードによる自然採光、各フロアに広がりリフレッシュスペースを備え、ワーカーの居住環境の向上に貢献。
- ・オフィス各階に防災備蓄倉庫を確保。

大阪駅、大阪ステーションシティ全体の包括的な防災連携



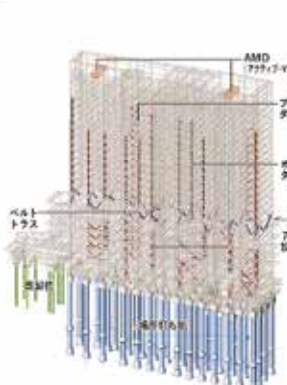
- ・イノゲート大阪は大阪駅を中心とした大阪ステーションシティ（OSC）の一翼を担う施設として、諸施設との防災を相互に連携する拠点の一つとして貢献。
- ・信頼性の高い3回線スポットネットワーク方式を採用した特別高圧電力受電ほか、72時間の自家発電対応を可能とするデュアル燃料型非常用発電機を備え、高いBCP性能を確保している。

街に回遊拠点を提供する2階レベルの計画



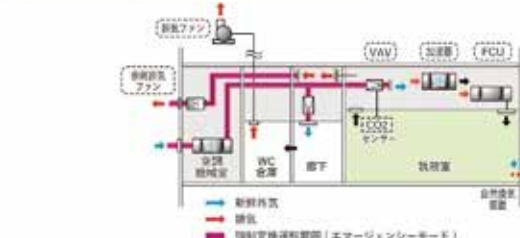
- ・屋内外貫通する大阪駅からグラングリーン大阪へと繋がる都市計画広場（交通広場）を2階に内包。
- ・都市インフラとしての動線機能に加え、ビルの共用部としても豊かな移動・滞留空間を実現。
- ・北側（グラングリーン大阪側）に全面開放する可動のフルハイトサッシにより都市公園側と一体化する開放空間に変貌。

オフィスの居住環境を向上させる構造計画



- ・アスペクト比を超える超スレンダーな高層ビルでありながら、建築基準法基準を超える高い耐震性能を備える。
- ・AMD 制振装置により強風時の風揺れを抑制しオフィスの居住環境向上に寄与。
- ・7F 設備フロアにベルトトラスを設けることで、耐震性向上とともにオフィス貸室内に柱の無い使いやすい執務室空間を実現。
- ・テナントに応じたフレキシビリティとして、サーバー室や書庫などの重量物にも対応可能な重荷重（1t/㎡）エリアや、鉄骨小梁やダクト配管迂回用スリブ・シャッター取付用下地の先付けにより将来的なテナント内階段対応可能エリアも備える。

感染症対策と多様性に応える設備計画



- ・設計段階で見舞われたコロナ（COVID-19）の流行を受け、空気の衛生状態の確保を強く求められた。
- ・通常時CO2制御により省エネ運転を実現しつつ、非常時には最大2回/h相当まで換気風量を引き上げられる強制換気モード（エマージェンシーモード）と個別加湿器を実装。
- ・オフィスPSには給排水配管を設け、各スパンで完結する設備システムとすることで、クリニックを始めとした多様なテナントニーズに柔軟に対応できるオフィス設備システムを構築。

市民とオフィスワーカーの帰宅困難者受け入れ計画



- ・浸水被害を回避する2階レベルの回遊動線は通路と広場を備えた空間で、屋内屋外共に利用も可能な、駅前の帰宅困難者受け入れスペースとなる。
- ・6F オフィスラウンジは、オフィスワーカー、施設利用者の帰宅困難者を受け入れる。どちらも災害時に備えた耐震天井と電源供給可能な計画としている。

大阪公立大学 森之宮キャンパス

大阪城公園の緑と呼応する“知の森”キャンパス

建築物概要

- 所在地：大阪市城東区森之宮2丁目
- 建築主：公立大学法人大阪
- 設計者：株式会社安井建築設計事務所
株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
- 用途：大学
- 敷地面積：19,318㎡
- 建築面積：10,097㎡
- 延べ面積：78,713㎡
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上13階
- CASBEE評価：Sランク/BEE値3.0
- 重点評価：CO₂削減4.0/みどり・ヒートアイランド対策3.0/建物の断熱性能5.0/エネルギー削減5.0/自然エネルギー直接利用4.0



【立地、周辺環境】

大阪東西の都市軸における重要拠点である森之宮に立地し、大阪城東部地区のまちづくり開発の1期工事としてキャンパス整備された。森之宮キャンパスはイノベーション・コアゾーンに位置付けられ、土地の高度利用を図りながらまちに開かれた都心キャンパスを計画した。1.5期開発では大学施設関連機能を中心とした計画となり、イノベーションの誘発が図られている。敷地西側は鉄道施設を挟んで大阪城公園の緑と隣接し、南・東にはUR森之宮団地・集合住宅・戸建が並ぶ。北側の中浜下水処理場とは下水処理水利用で連携している。

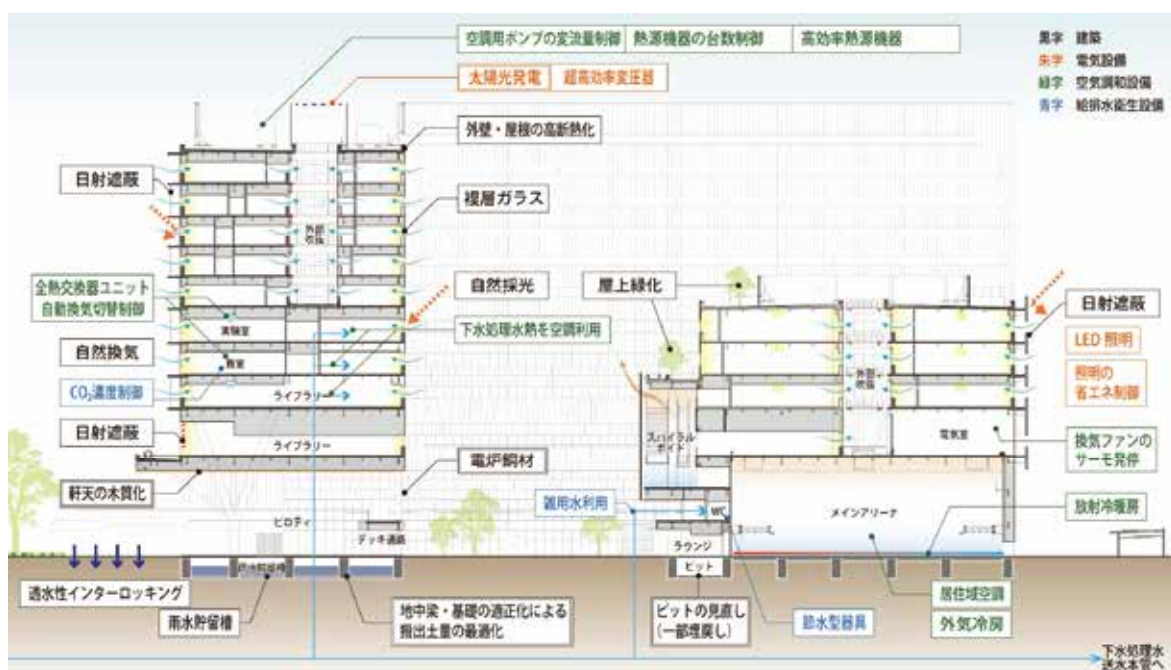
【総合的なコンセプト】

「大阪城公園の緑とつながり、様々な場と活動を育む、大阪城東部地区のまちのシンボルとなるイノベーション・コアとして、様々な場やアクティビティを繋げる一つの“知の森”を創り出す」を基本コンセプトとし、次世代型キャンパスシティを目指した。

地区計画により敷地内に広場や通路を計画することで容積緩和を受けており、地域住民が利用できるまちに開かれたキャンパスとしつつ、土地の高度利用を実現している。大阪城公園の緑と呼応する西側広場は公園のように利用でき、大阪城に面した西側ファサードを樹形柱によるピロティ空間と、日射遮蔽と大阪城への視線の抜けを両立したコモレピスクリーンによってデザインした。

設備統合ネットワークの構築による各種設備データの一元管理によって効率的な運用を可能にしており、ビルOSと接続することで大学としての各種研究に関連したデータ検証や実証が可能となっている。

建物断面構成図

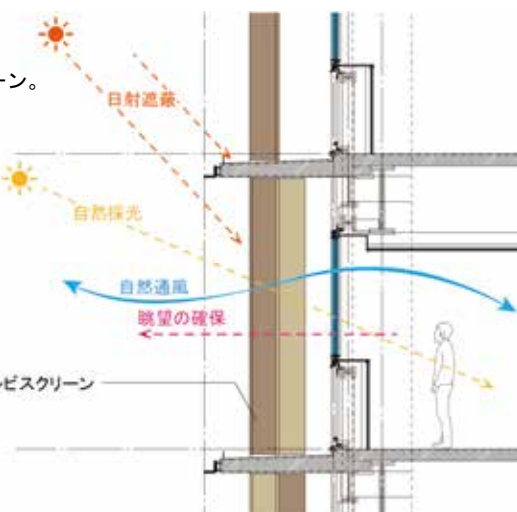
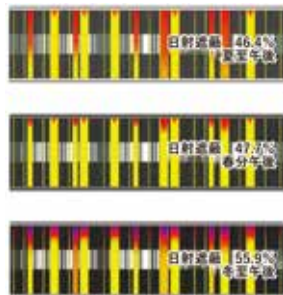


環境配慮事項とねらい

■日射遮蔽と眺望の確保を両立する

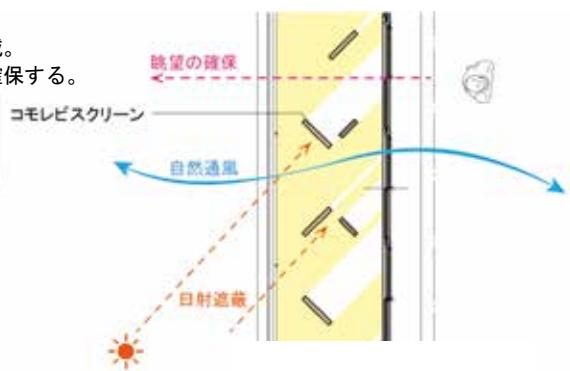
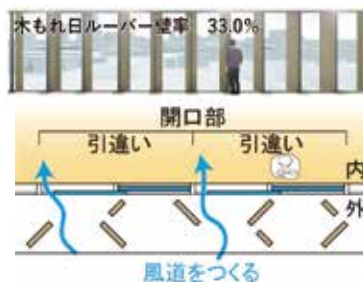
□日射負荷を軽減する

- ・ルーバーを前後2列に配置し日射遮蔽効果を最大化した西面のコモレビスクリン。
- ・内部から大阪城への景観を確保するため、立面におけるルーバー比率を軽減。
- ・シミュレーションにより日射遮蔽率とルーバー壁率を最適化することで日射遮蔽と景観の確保を両立。
- ・建物四周に庇及びルーバーを設置し、採光を確保しながら熱負荷を抑える。



□大阪城への眺望を確保する

- ・内部から大阪城への景観を確保するため、立面におけるルーバー比率を軽減。
- ・サッシを引違いとすることで景観を確保したルーバーの間から自然通風を確保する。



□緑を通じた地域と連動する景観形成

- ・アプローチとオープンスペースを緩やかに一体化することで、学生の賑わいや憩いの風景を可視化。
- ・地域の潜在自然植生を中心とし、大阪城公園を中心とした生態系ネットワークを創出。



[立体的な緑の連続性]

[知の森の中心へといざなうオープンスペース]

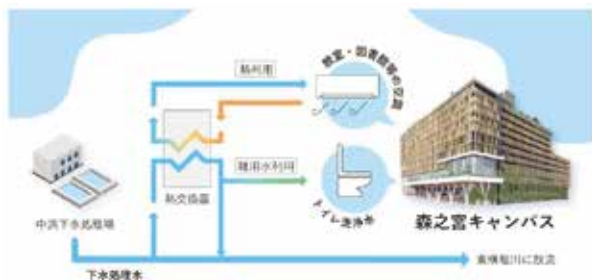
■地域連携による省エネと運用データの活用

□隣接する中浜下水処理場との連携

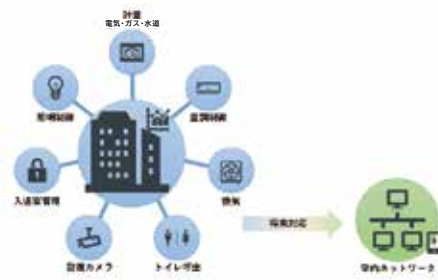
- ・敷地に隣接する中浜下水処理場で高度処理された下水処理水は年間を通じて外気よりも安定しており、空調熱源に利用。

□設備統合ネットワークの構築とビル OS の接続

- ・設備統合ネットワークの構築による各種設備データの一元管理によって効率的な運用が可能。
- ・大学独自に開発されたビル OS と接続することで大学としての各種研究に関連したデータ検証、実証が可能。



[下水処理水の利用]



[設備統合ネットワークとビル OS の連携]

パティナー大阪

周辺と一体的に緑地を生むZEB Oriented認証取得の高級ホテル

建築物概要

- 所在地：大阪市中央区馬場町
- 建築主：NTT都市開発株式会社
- 設計者：株式会社竹中工務店
大阪一級建築士事務所
- 用途：ホテル

- 敷地面積：4,895㎡
- 建築面積：2,290㎡
- 延べ面積：38,940㎡
- 構造：鉄骨造
- 階数：地上21階/地下3階
- CASBEE評価：Aランク/BEE値2.3
- 重点評価：CO₂削減4.0/みどり・ヒートアイランド対策4.0/
建物の断熱性能3.0/エネルギー削減5.0/自然エネルギー直接利用3.0



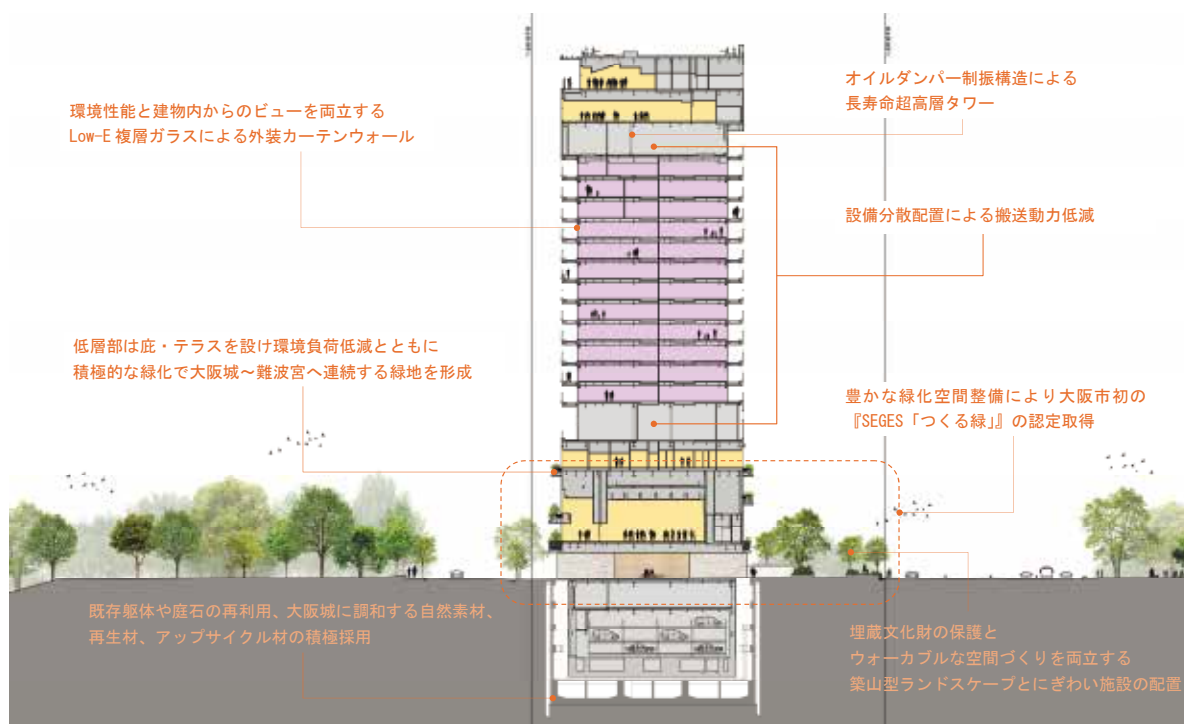
【立地、周辺環境】

難波宮跡と大阪城に囲まれ“大阪始まりの場所”とも言える特別な敷地に建つ、ホテルの計画であり、市民生活/観光の両面で重要な立地である。特定街区制度を利用した敷地を跨ぐ一体開発と、隣地で同時期に実施された「難波宮跡公園整備」を同事業者・同設計者が整備することで、谷町4丁目～森ノ宮を繋ぐエリア一体に緑と歩道のネットワークを生み、ホテルを中心に新たなにぎわいを生んでいる。

【総合的なコンセプト】

高性能なガラスカーテンウォールにより環境性能を高めつつ、室内からの眺望と空に溶け込む現代的な外観を両立した都市型リゾートホテル。環境負荷の高い高級ホテル用途ながら「ZEB Oriented」認証を取得した。また、同時期・同事業者による難波宮跡公園整備と連携し一体的にデザインすることで、谷町～森ノ宮エリアの新たな核として、市民に開かれた緑豊かでウォーカブルな都市空間を創出している。石垣に着想を得た低層テラスをはじめ、環境に配慮しつつラグジュアリーな空間体験を提供する建築計画に、制振構造による堅牢な構造計画と、省エネ性・効率性の高い設備計画を組み合わせることで、ロングライフでサステナブルな超高層建築を実現した。

建物断面構成図



環境配慮事項とねらい

環境性能と建物内からのビューを両立する Low-E 複層ガラスによる外装カーテンウォール

客室

- ・ Low-E 複層ガラスを採用し環境性能を向上
- ・ 大判ガラスによりサッシ数量の低減、環境性能向上とともに室内からの良好なビューを確保
- ・ 非空調の居住空間として屋外コーナーテラスを設置

共用エリア

- ・ ペリメーターヒーターや発熱ガラスを組み合わせ温度差の少ない室内環境を実現



低層部は庇・テラスを設け環境負荷低減とともに積極的な緑化で大阪城〜難波宮へ連続する緑地を形成

- ・ 低層部は日陰をつくる庇やテラスを設置
- ・ テラス上部は植栽を施し、周囲の緑を連続
- ・ デッキテラスを設け積極的な室外空間の利用を促進



既存躯体や庭石の再利用、大阪城に調和する自然素材、再生材、アップサイクル材の積極採用

- ・ 大阪城で利用されている、花崗岩や銅、木のほか、和紙や土など自然素材を採用し、流行に捉われないロングライフな意匠計画を実現
- ・ 建替前の既存建物地下躯体や、庭石を計画に再利用
- ・ 再生砕石、人工再生木をはじめ再生材を採用
- ・ 木の古材によるテーブル、廃材によるアートワークなど古い建材や不要となった資材をアップサイクル



埋蔵文化財の保護とウォークアブルな空間づくりを両立する築山型ランドスケープとにぎわい施設の配置

- ・ 低層部に飲食やショップなどにぎわい施設を配置
- ・ 掘削範囲を既存躯体内に限定し文化財への影響低減
- ・ 盛り土により築山を形成し視線制御と緑被率を両立
- ・ 高低差を活かし水景により幹線隣接部に居場所形成
- ・ 東西の通り抜け歩道を設置し一体の歩行空間を強化
- ・ 上記取組により大阪市初の『SEGES「つくる緑」※1』の認定取得

※1…社会・環境貢献緑地評価システム（シージェス）。緑地保全や創出に関わる取組について、優れた計画・事業を評価する認定制度。

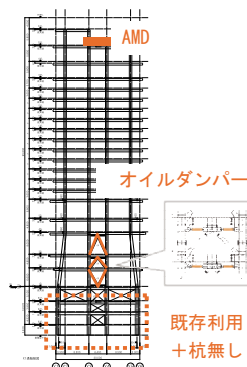
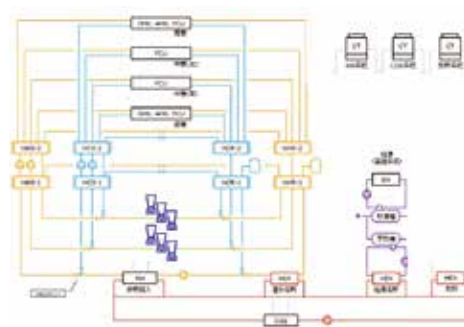


オイルダンパー制振構造による長寿命超高層タワー

- ・ オイルダンパーによる制振構造を採用
- ・ 既存躯体を利用し、杭無しで超高層を実現
- ・ 鉄骨造に CFT、SRC を組合せた適材適所の構造計画
- ・ AMD※2 により風荷重に対する居住性を向上

※2…アクティブ・マス・ダンパー

コジェネレーションと熱源種分散を組合せた熱源フロー図



省エネ・BCP に配慮した高効率、信頼性の高い設備計画

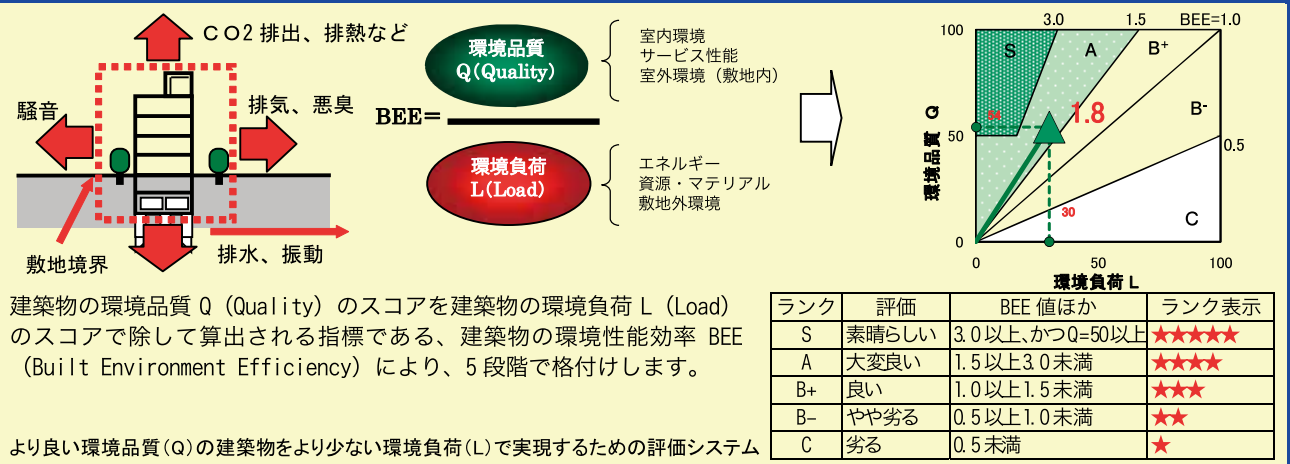
- ・ 客室内モーションセンサーによる省エネ照明制御
- ・ コジェネレーション設備、電気・ガスを用いた空調熱源種の分散化による信頼性の高い設備計画
- ・ BEMS 機能によるエネルギーの見える化により空調、照明などの設備を効率的に制御

建築物環境総合性能評価システム（CASBEE）とは

産官学共同プロジェクトとして開発された、建築物の環境性能を評価し格付けする手法で、省エネルギーや環境負荷の少ない資機材の使用といった環境配慮だけではなく、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総合的に評価するシステムです。

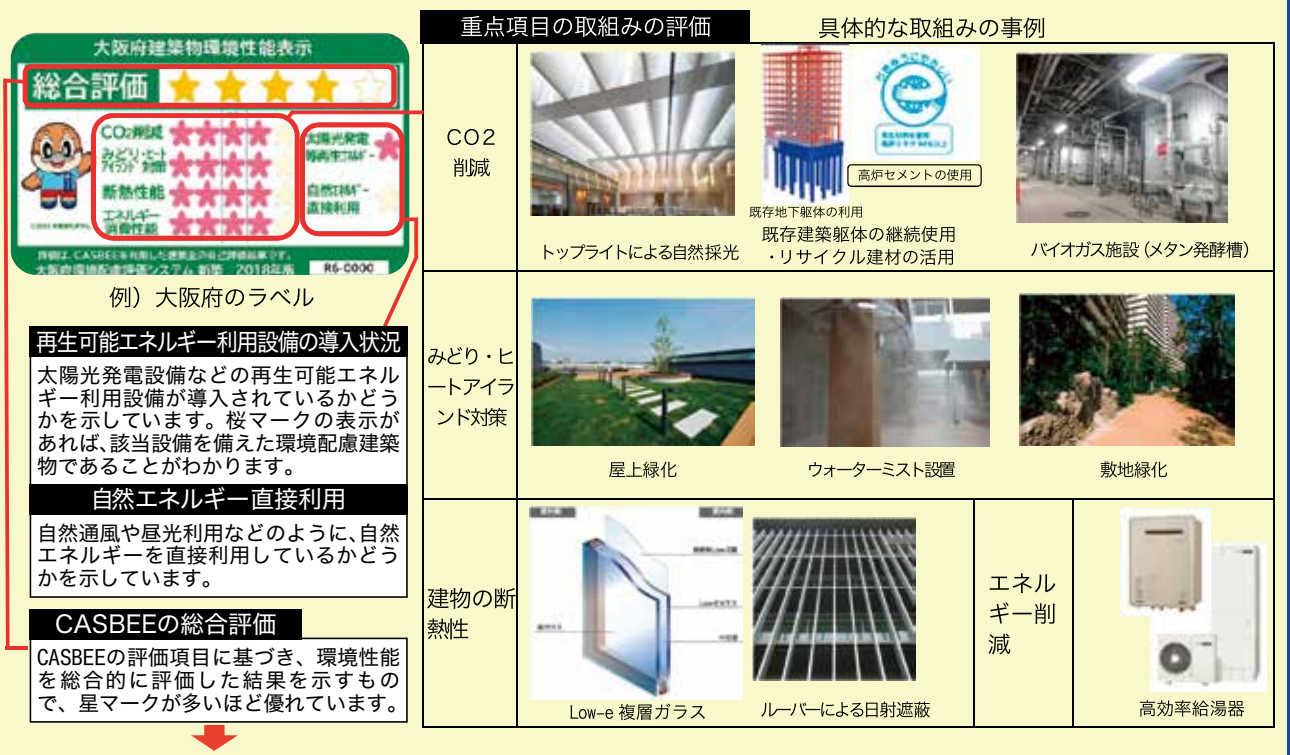
(CASBEE : Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency)

CASBEE 評価のしくみ



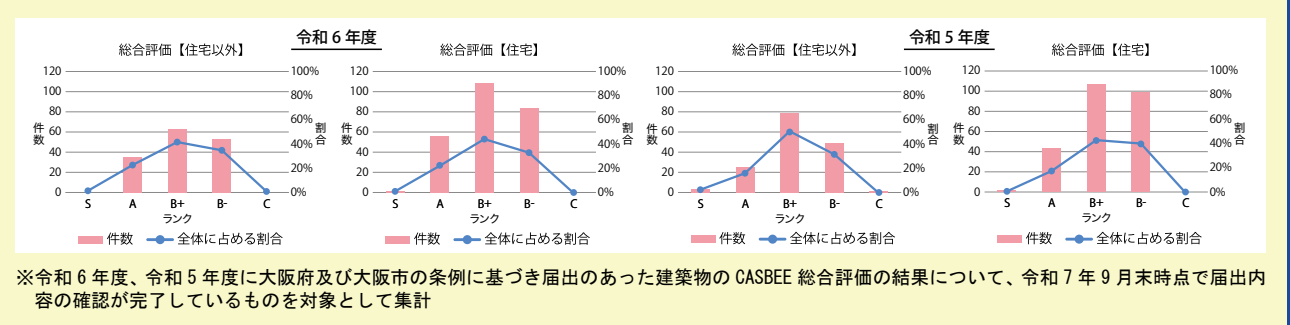
建築物環境性能表示（ラベル表示）

CASBEE 評価と重点項目である CO2 削減、みどり・ヒートアイランド対策、建物の断熱性、エネルギー削減、太陽光発電その他再生エネルギーの利用や自然エネルギーの直接利用について、建築物の環境性能をわかりやすく示しています。



届出建築物の総合評価結果の分布状況

届出全体に占める S (星 5 つ) または A ランク (星 4 つ) の割合は、住宅、住宅以外のいずれの用途においても 20% 程度となっています。特に S ランクの建築物は届出全体の数%程度と少なく、環境配慮に優れた建築物であるといえます。



建築物の環境配慮に関連する制度紹介

自治体のラベル制度 ※床面積の合計 2,000m² 以上の新築、増築、改築しようとする建築物が対象



(平成30年4月1日以降に環境配慮制度に関する届出がなされる建築物から適用されるラベル)

建築物環境性能表示制度

分譲マンションや賃貸オフィスなどの募集広告及び工事現場に建物の環境性能を表示する制度です。快適で環境に配慮した建築物が市場で評価される仕組みや広く府民の目にとまることで、建築主の意識を高める仕組みづくりを目指しています。CASBEE評価と重点項目であるCO₂削減、みどり・ヒートアイランド対策、建物の断熱性、エネルギー削減について5段階で表示しております。また、平成30年度からは太陽光発電その他再生エネルギーの利用に加え、自然エネルギーの直接利用についても追加されています。

国のラベル制度 ※すべての新築建築物が対象



(令和6年4月1日以降に建築基準法の確認申請をした建築物から適用されるラベル)

建築物省エネ性能表示制度

販売・賃貸事業者が建築物の省エネ性能を広告等に表示することで、消費者等が建築物を購入・賃借する際に、省エネ性能の把握や比較ができるようにする制度です。住まいやオフィス等の買い手・借り手の省エネ性能への関心を高めることで、省エネ性能が高い住宅・建築物の供給が促進される市場づくりを目的としています。

令和6年度からは、事業者は新築建築物の販売・賃貸の広告等において、省エネ性能の表示ラベルを表示することが求められています(努力義務)。

低炭素建築物 認定制度

「都市の低炭素化の促進に関する法律」に基づき、二酸化炭素の排出の抑制に資する建築物を認定する制度です。所管行政庁による「低炭素建築物新築等計画」の認定を受けることで、税制優遇措置や容積率の特例を受けることができます。所管行政庁への低炭素建築物新築等計画の認定申請に先立ち、登録建築物調査機関、登録住宅性能評価機関等の技術的審査を受けることができます(技術的審査の活用とその範囲については所管行政庁により取り扱いが異なります。)



住宅性能表示制度

「住宅の品質確保の促進等に関する法律」(平成12年4月1日施行)に基づき、良質な住宅を安心して取得できる市場を形成するために作られた制度です。構造耐力、省エネルギー性、遮音性など住宅に必要な性能が、統一されたルールで表示されますので、性能の確認や比較がしやすくなります。評価は国に登録された第三者機関(登録住宅性能評価機関)が行っています。

長期優良住宅 認定制度

「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」に基づき、長期にわたり良好な状態で使用するための措置が、構造及び設備について講じられた優良な住宅を認定する制度です。所管行政庁による「長期優良住宅建築等計画」の認定を受けることで、住宅ローン減税(所得税、個人住民税)、登録免許税、不動産取得税、固定資産税の税制上の優遇を受けることができます。所管行政庁への長期優良住宅建築等計画の認定申請に先立ち、登録住宅性能評価機関の技術的審査を受けることができます(技術的審査の活用とその範囲については所管行政庁により取り扱いが異なります。)

令和6年度おおさか環境にやさしい建築賞

大阪府知事賞 ■茨木市文化・子育て複合施設おにクル
所在地：茨木市駅前3丁目
建築主：茨木市
設計者：伊東豊雄建築設計事務所・竹中工務店共同企業体

住宅部門賞 ■ジオ彩都いろどりの丘 1工区
所在地：箕面市彩都栗生南4丁目
建築主：阪急阪神不動産株式会社
設計者：株式会社フジター級建築士事務所

事務所部門賞 ■エア・ウォーター健都
所在地：摂津市千里丘新町
建築主：エア・ウォーター株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所

商業施設その他部門賞 ■立命館大学大阪いばらきキャンパス H棟
所在地：茨木市岩倉町
建築主：学校法人立命館
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所

■LOGI'Q 南茨木
所在地：茨木市蔵垣内1丁目
建築主：東急不動産株式会社(合同会社ユニーク)
設計者：西松建設株式会社一級建築士事務所

大阪市長賞 ■御堂筋ダイビル
所在地：大阪市中央区南久宝寺町4丁目
建築主：ダイビル株式会社
設計者：株式会社日建設計一級建築士事務所

事務所部門賞 ■JPタワー大阪
所在地：大阪市北区梅田3丁目
建築主：日本郵便株式会社
JR西日本ステーションシティ株式会社
株式会社JTB
設計者：株式会社日建設計一級建築士事務所

商業施設その他部門賞 ■医療複合施設【i-Mall】
所在地：大阪市北区南扇町
建築主：医療法人医誠会
一般財団法人ホロニクス医学健康振興財団
設計者：株式会社安井建築設計事務所

令和5年度おおさか環境にやさしい建築賞

大阪府知事賞 ■クボタグローバル技術研究所
所在地：堺市堺区匠町
建築主：株式会社クボタ
設計者：株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所

大阪市長賞 ■フレスポ阿波座
所在地：大阪市西区立売堀6丁目
建築主：大和リース株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所

令和4年度おおさか環境にやさしい建築賞

大阪府知事賞 ■枚方市総合文化芸術センター
所在地：枚方市新町2丁目
建築主：枚方市
設計者：株式会社日建設計

大阪市長賞 ■大阪梅田ツインタワース・サウス
所在地：大阪市北区梅田1丁目
建築主：阪神電気鉄道株式会社
阪急電鉄株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所

令和3年度おおさか環境にやさしい建築賞

大阪府知事賞 ■Innovation Garden OSAKA Center
所在地：高槻市桜町
建築主：コニカミノルタ株式会社
設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所

大阪市長賞 ■藤田美術館
所在地：大阪市都島区網島町
建築主：公益財団法人藤田美術館
設計者：大成建設株式会社関西支店
一級建築士事務所

令和2年度おおさか環境にやさしい建築賞

大阪府知事賞 ■東大阪市文化創造館
 所在地：東大阪市御厨南2丁目
 建築主：東大阪市
 PFI東大阪文化創造館株式会社
 設計者：東大阪文化創造館設計・
 音響コンサル共同企業体
 株式会社佐藤総合計画関西オフィス
 株式会社大林組大阪本店一級建築士事務所
 株式会社永田音響設計

大阪市長賞 ■株式会社ヒラカワ本社
 所在地：大阪市北区大淀北1丁目
 建築主：株式会社ヒラカワ
 設計者：関西ビジネスインフォメーション株式会社
 KBI計画・設計事務所

令和元年度おおさか環境にやさしい建築賞

大阪府知事賞 ■国立循環器病研究センター
 所在地：吹田市岸部新町
 建築主：国立研究開発法人国立循環器病研究センター
 設計者：株式会社佐藤総合計画
 株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所
 株式会社日本設計

大阪市長賞 ■読売テレビ新社屋
 所在地：大阪市中央区城見1丁目
 建築主：読売テレビ放送株式会社
 設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所

平成30年度おおさか環境にやさしい建築賞

大阪府知事賞 ■和泉市立総合医療センター
 所在地：和泉市和気町4丁目
 建築主：和泉市
 設計者：清水建設株式会社関西支店一級建築士事務所

大阪市長賞 ■ケイ・オブティコムビル
 所在地：大阪市中央区城見2丁目
 建築主：関電不動産開発株式会社
 設計者：株式会社竹中工務店大阪一級建築士事務所

平成29年度おおさか環境にやさしい建築賞

大阪府知事賞 ■メディカルりんくうポート
 所在地：泉佐野市りんくう往来南
 建築主：株式会社りんくうメディカルマネジメント
 設計者：株式会社日建設計

大阪市長賞 ■大阪工業大学梅田キャンパスOIT梅田タワー
 所在地：大阪市北区茶屋町
 建築主：学校法人常翔学園
 設計者：服部・石本・安井設計監理共同企業体

平成28年度おおさか環境にやさしい建築賞

大阪府知事賞 ■ダイキン工業テクノロジー・イノベーションセンター
 所在地：摂津市西一津屋
 建築主：ダイキン工業株式会社
 設計者：日建設計・
 NTTファシリティーズ設計共同企業体

大阪市長賞 ■関西電力病院
 所在地：大阪市福島区福島2丁目
 建築主：関西電力株式会社
 設計者：株式会社日建設計

平成27年度おおさか環境にやさしい建築賞

大阪府知事賞 ■ヘルランド総合病院
 所在地：堺市中区東山
 建築主：社会医療法人 生長会
 設計者：清水建設株式会社関西支店一級建築士事務所

大阪市長賞 ■YANMAR FLYING-Y BUILDING
 所在地：大阪市北区茶屋町
 建築主：セイレイ興産株式会社
 設計者：株式会社日建設計

■その他の受賞作品については、下記府ホームページをご覧ください。

環境にやさしい建築賞 パンフレット

検索

https://www.pref.osaka.lg.jp/o130170/kenshi_shinsa/casbee_index_html/setubi_osb_osb_estab.html

過去の受賞建築物が掲載されているホームページ





監修：大阪府都市整備部住宅建築局建築環境課
大阪市計画調整局建築指導部建築確認課

発行：大阪府都市整備部住宅建築局建築環境課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16
大阪府咲洲庁舎(さきしまコスモタワー)27階
電話 06-6210-9725 FAX 06-6210-9714

このパンフレットは次の団体様のご協力により印刷いただいたものです。
(公社)大阪府建築士会、(公財)大阪府都市整備推進センター、(一財)大阪建築防災センター、
(一社)大阪府建築士事務所協会、(一財)日本建築センター、(一財)日本建築総合試験所、
(一社)不動産協会関西支部、(一社)近畿建築確認検査協会

発行月：令和8年1月